週刊 YEAR BOOK

1956
昭和31年

日録20世紀

12|16
平成9年12月16日発行
(毎週1回発行)第1巻第41号
¥560
講談社

「太陽の季節」芥川賞受賞!

憧れの2DK——「団地族」誕生
「週刊新潮」を皮切りに"週刊誌時代"始まる
「スターリン批判」が暴いた恐怖政治の実態

信用ある Ⓚ 日活映画

俺の恋人を、兄貴に五千円で売ってやらぁ!—これほど大胆に若い世代の性とモラルを描いた映画はない!!

太陽の季節

原作・石原慎太郎(新潮社版)芥川賞受賞
脚本・監督・古川卓巳

製作・水の江滝子
撮影・伊佐山三郎
美術・松山崇
録音・橋本文雄
照明・森年男
編集・辻井正則
音楽・佐藤勝

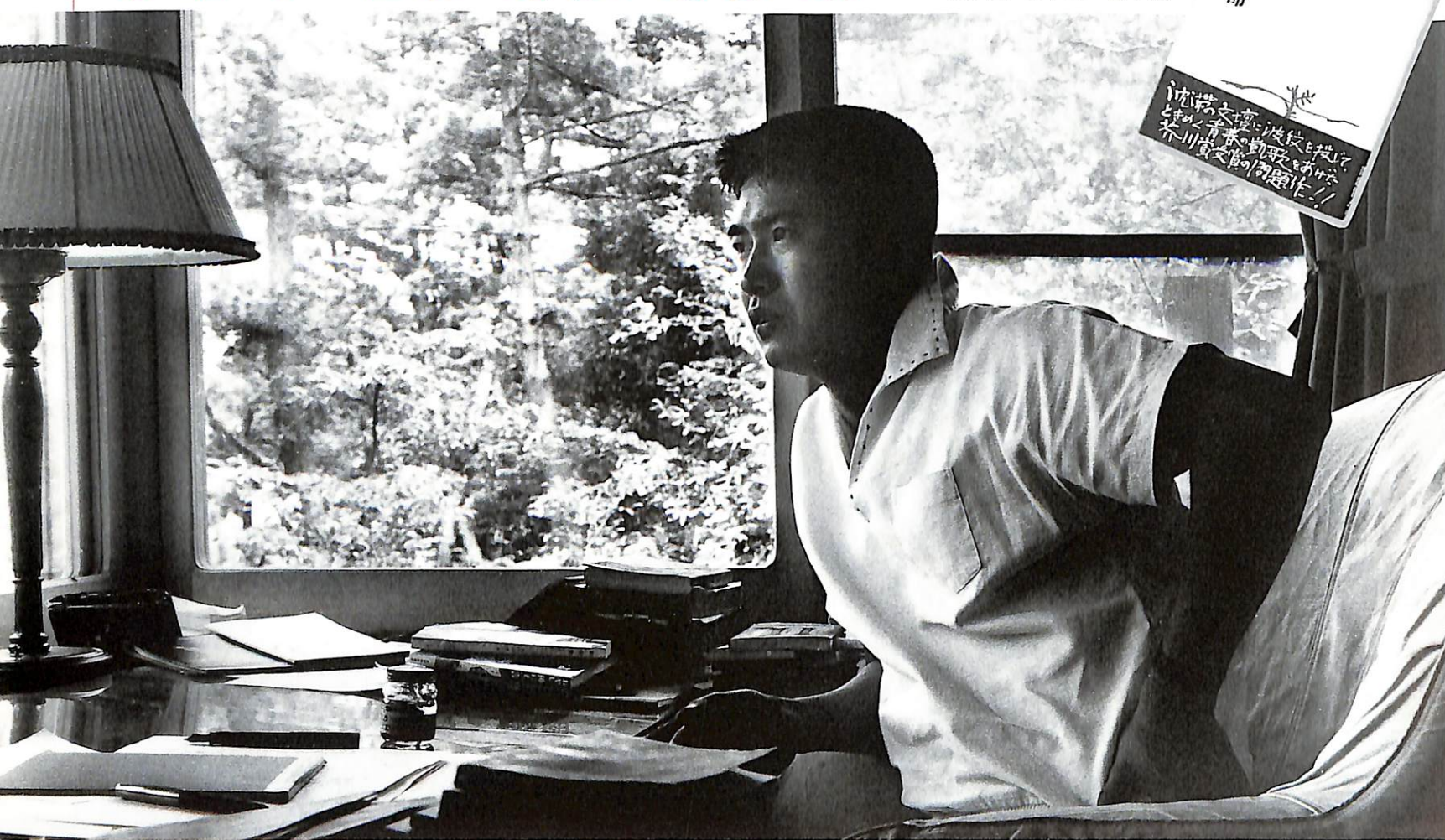
南田洋子 長門裕之 三島耕 東谷暎子 清水将夫 佐野浅夫 岡田真澄 坪内美詠子 石原裕次郎(新人) 石原慎太郎(特別出演)

日活株式会社製作配給

▶映画「太陽の季節」は、昭和三一年五月一七日封切。脇役でデビューした石原裕次郎とともに、日活は以降、青春映画、アクション映画の黄金時代を築く。 日高靖一/日活提供

◎表紙　版画家・棟方志功。昭和31年、ベネチア・ビエンナーレのグランプリを受賞し、一躍「世界のムナカタ」となった。 土門拳

「慎太郎刈り」がはやり、「太陽族」が闊歩
小説が若者の新風俗を生んだ
騒然!「太陽の季節」芥川賞受賞

▶芥川賞受賞の1ヵ月後に新潮社から刊行された『太陽の季節』。この年のベストセラー第1位。

▲石原慎太郎。昭和31年、芥川賞を社会的な事件にまでした石原は、その後も大胆な言動で注目を集め続けた。 土門拳

この年一月、第三四回芥川賞は、湘南を舞台に若者の奔放な生態を赤裸々に描写した、石原慎太郎の「太陽の季節」が受賞した。だがその評価をめぐって、文壇は賛否両論が真っ向から激突する。一方、この作品をきっかけに「太陽族」が出現、小説が風俗の動向を直接左右する、大衆社会の到来を告げる出来事でもあった。

受賞をめぐり三時間 前代未聞の大激論!

昭和三一年一月二三日の夜、東京・築地の料亭「新喜楽」に文壇の大家たちが顔をそろえ、ひとつの作品をめぐって、激論を戦わせていた。第三四回芥川賞を決める詮衡委員会である。候補作となっていたのは、一橋大学法学部在学中の石原慎太郎(二三)の「太陽の季節」、藤枝静男(四八)の「痩我慢の説」など六作品だった。論議の軸は「太陽の季節」の評価であった。この作品は、湘南を舞台に、既成の価値観に不信感を持つ戦後世代の学生の、奔放な生き方を赤裸々に描いていた。詮衡委員九名は、賛成、反対に別れ、まったく相譲らなかった。スタッフとして立ち会った鷲尾洋三(元文藝春秋副社長)によれば「騎虎の勢いとも云うべき」「激語」(鷲尾洋三『忘れ得ぬ人々』)も飛び出し、一時はけわしい空気すら醸し出された、という。

選評から激論を再構成するとこうだ。佐藤春夫(六三)は「反倫理的なのは必ず(し)も排撃はしないが、こういう風俗小説を文芸として最も低級なものと見ている上、この作者の鋭敏げな時代感

「慎太郎刈り」がはやり、「太陽族」が闊歩
小説が若者の新風俗を生んだ

騒然！「太陽の季節」芥川賞受賞

覚も、（中略）決して文学者のものではないと思ったし、（中略）作者の美的節度の欠如を見て最も嫌悪を禁じ得なかった」と一刀両断にした。これに対し、舟橋聖一（五一）は「若い石原が、世間を恐れず、素直に生き生きと『快楽』に対決し、その実感を用捨なく描き上げた肯定的積極感が好きだ」と絶賛した。

石川達三（五〇）も「如何にも新人らしい新人である。危険を感じながら、しかし私は推薦していいと思った」。

中村光夫（四四）は「未完成がそのまま未知の生命力の激しさを感じさせる点で異彩を放っている」と評価した。が、同時に「授賞に賛成しながら、僕はなにかとりかえしのつかないむごいことをしてしまったようなうしろめたさ」を感じたとも言う。否定する側だけでなく、推薦する側にも一抹の不安があったことは間違いない。

たしかに当時「英子がこちらを向いた気配に、彼は勃起した陰茎を外から障子に突き立てた」などという表現は、ショッキングであったろう。

芥川賞の歴史に残る大激論が、どれだけ続いたのか、正確な記録はない。しかし午後六時に始まり、九時頃には石原に受賞決定が知らされているから、三時間近い論議だったようだ。

結局授賞を積極的に支持したのは舟橋聖一と石川達三の二人、シブシブ支持したのは、瀧井孝作（六一）、川端康成（五六）、中村光夫、井上靖（四八）の四人。反対が佐藤春夫、丹羽文雄（五一）、宇野浩二（六四）の三人だった。

抜き差しならない対立に決着をつけたのは井上靖の発言だった。井上は師の佐藤に対し、「先生、私は『太陽の季節』は欠点はあるにせよ、いい作品だと思います。ぐんぐん伸びる可能性のある作家だと思います。この作家の授賞に私は賛成です」と語ったという。

前出の鷲尾は「(井上は）少し固い切口上だったが、その語調には自信にあふれた平静さがあった」と回想している。

▲"慎太郎刈り"は、GI刈りやスポーツ刈りよりは前髪がやや長く、額に垂直に垂れているのが特徴と言われた。　朝日新聞社

結局、多数決で石原への授賞が決まったが、なおも不満な佐藤は「この当選には連帯責任は負わないよ」と捨てぜりふめいた言葉すら残している。

ちなみに、石原に贈られた賞は、正賞の時計と、副賞の一〇万円であった。

「太陽族」ブームは大衆社会化の先駆

昭和三一年は、『経済白書』が「もはや戦後ではない」と評した年。鉱工業生産などが戦前の水準を上回り、高度経済成長への助走が始まっていた。

「太陽の季節」は、文壇の「内輪もめ」にとどまらず、社会現象と化していった。作品に描かれた若者ファッションは、たちまち全国に広まった。小説から若者の風俗が生まれたのは、後にも先にも例を見ない。「太陽族」は、いわば大衆社会現象の先駆だった。後の「〇〇族」のはしりとなった「太陽族」は、作者・石原のヘアスタイルを真似て「慎太郎刈り」にし、アロハシャツにサングラスというスタイルで街を闊歩した。「ドライ」という言葉に象徴される奔放な青春をすごす戦後世代に対し、おとなたちは眉をひそめた。交際相手を妊娠させ、堕胎手術のすえ、死亡させる、という「太陽の季節」のストーリーは極端だったかもしれない。だが、あくまでみずからの欲望にのみ率直な、あるいはそう見えた彼らの生き方は、おとなたちにとって唾棄すべき存在だったのだ。

「朝日新聞」はその急先鋒で、「週刊朝日」（七月一五日号）では「もういい、慎太郎」という特集を組んだほどだ。そして異常な過熱の中で、「太陽の季節」の単行本は二七万部のベストセラーとなり、日活で映画化される。主演は長門裕之と南田洋子。共演者には石原の弟・裕次郎（二一）が顔を見せ、一躍スターダムにのし上がった。

その一方で、当時行われた「見せたくない映画」アンケートの結果によれば、一〇位までに「太陽の季節」「狂った果実」「処刑の部屋」など三本の「太陽族映画」がランクされている。婦人団体やPTAは、こうした映画に激しく反発し、「青少年の不良化を助成する」と決めつけた。そして議論は、映画そのものを問う論争にまで発展する。文部省は、不良映画に法的な措置をとると言明し、一部からは、検閲復活論も飛び出した。これに対し、映倫も、第三者委員を加えるなどの機構改革に追いこまれた。さらに、警視庁では、「太陽族」や愚連隊の徹底した取締り方針を打ち出し、この年の八月、九月の二ヵ月間で一万一六九九人の若者が検挙されたのである。

だが太陽族は――風俗という形をとってはいたが――、若者のパワーが公然と世の中に台頭した初めてのケースだったのである。

▲昭和31年の夏、「太陽の季節」の舞台となった湘南海岸には、慎太郎刈りにアロハシャツ姿でガールハントにおよぶ「太陽族」があふれた。　共同通信社

昭和30年代「若者族」の系譜

「太陽の季節」に描かれた戦後世代のドライな若者を、造語の達人、大宅壮一は「太陽族」と名づけたが、その後「族」はまさに続々と出現しては消えていった。

●ながら族

昭和33年頃に登場した、ジャズやロックを聴きながらでないと勉強ができない若者のこと。ほかのことをしながらでないと集中できない矛盾した存在だった。「ながら族」の名こそ耳にしないが、いまだに健在だ。

●カミナリ族

昭和34年前後に現れたのが「カミナリ族」。スピード狂で、マフラーをはずしたバイクで、カミナリのようにけたたましく疾走したところから命名。一名を「マッハ族」とも言う。

●みゆき族

昭和39年の夏休みに、東京・銀座のみゆき通りに出没したのが「みゆき族」。女はワインレッドのロングスカート、白い長袖ブラウス、男はバミューダショーツやアイビー・スタイル。ズダ袋を持っていたのが特徴。

●エレキ族

ビートルズが活躍した30年代後半に一世を風靡したのが「エレキ族」。エレキギターをボリュームいっぱいに上げ、かき鳴らした。

◀男性のアロハシャツ、マンボズボンに対して、女性は落下傘スタイルのスカートが「太陽族」の"制服"と言われた。昭和三一年夏、都内の街角にて。

毎日新聞社

憧れの2DKにステンレス流し台、風呂つき
競争率一四・四倍——「団地族」が誕生！

この年、住宅難解消の切り札として設立された日本住宅公団が建設した、公団住宅の入居受付が始まった。鉄筋コンクリート造りの2DK、ステンレス流し台、風呂つき……。木造平屋で一間、共同トイレという生活を送っていた平均的庶民にとって、モダンな公団住宅は憧れのまとそのものであった。

▶公団住宅のダイニング・キッチンと居室。4畳半は独立した子ども部屋、6畳は両親の寝室という間取り。DKは公団の造語だった。

住宅・都市整備公団提供

時代を先取りしたモダンな公団住宅

昭和三一年七月一六日朝、東京都千代田区竹平町（現在の竹橋付近）から九段方面に一〇〇㍍を超える行列ができていた。このあたりには縁のなさそうな主婦や家族連れが目立ち、日頃静かな界隈が時ならぬにぎわいを見せていた。その列の先頭は、日本住宅公団（現・住宅・都市整備公団）事務所の入り口へと吸いこまれていった。

この年、四月から公団住宅の供給が開始された。大阪府堺市・金岡住宅を皮切りに、名古屋市・志賀住宅、東京地区の牟礼、青戸、埼玉県大宮市・西本郷、神奈川県鎌倉市・山崎、千葉県柏市・荒工山など、全国で約二万戸の新しい団地が登場したのである。

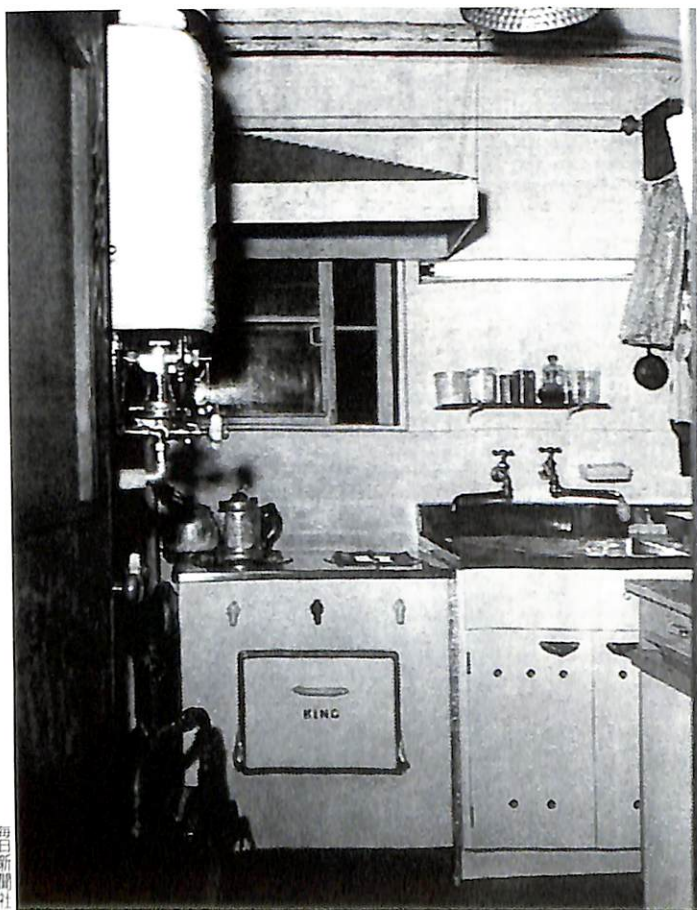
この日竹平町にできた行列は、三鷹市牟礼住宅の入居希望者だった。応募戸数四〇五戸に、申込者五八一五人、倍率一四・四倍という盛況ぶりだった。

知名度がなく、応募者があるのか不安だった公団職員は、東京駅八重洲口などでビラ配りまでした。だが、そうした心配を吹き飛ばす人気を見せたのだった。

「当時の都市サラリーマン家庭の平均的住居は、木造平屋の四畳半か六畳一間。共同トイレ、簡単な台所つきに暮らす人がほとんど。そこへ、わずか一三坪とはいえ、鉄筋コンクリートの不燃アパート、六畳と四畳半にダイニング・キッチンのモダンな2DK住宅を供給した。庶民の注目を集めるのは当然でした」と、住宅評論家・佐藤美紀雄氏は語る。

公団がこうした住宅を造ったのは、「食寝分離」——台所で食事をし、寝室で寝る——の定着をねらったためだった。バラック住宅こそ減ってきたとはいえ、当時の住環境は貧弱そのもの。限られた予算の中での、魅力ある住空間の目玉が〝明るいキッチン〟だった。従来、台所は食物の保存性を高めるために北側の涼しい場所に配置されることが多く、そのため〝薄暗い台所〟のイメージが強かった。これを一新し、主婦の労働環境を改善させるという戦後的な息吹もそこには含まれていた。

そして、その決め手となったのが、清潔で、ピカピカに輝くステンレス流し台の採用である。従来の流しは、人造石研ぎ出し、通称「人研」で、暗さやぬめりなど不潔でマイナーなイメージがつきまとっていた。それだけにステンレス流し台は、主婦から圧倒的にもてはやされたのである。実際、当時のアンケートでは、ステンレスの流し台が気に入ったと答えた主婦が九〇㌫にものぼった。モダンなキッチンが公団住宅の人気に拍車をかけ、三八年には三八・九倍もの競争率をつける。一〇回、一五回の落選はざらで「宝籤並みの確率」とすら言われた。

だが、当時は庶民にとって、公団住宅

▲ステンレス流し台つきの台所。当初は人研（人造石研ぎ出し）流しもあった。

毎日新聞社

▶公団の窓口に列をなす入居応募者。あまりの混雑に、三七年六月から郵送方式に切り替えられた。

は〝高嶺の花〞だった。大卒者の平均月収が一万二〇〇〇円程度、月収一万～二万円という勤労者にとって、家賃四〇〇〇～五〇〇〇円は厳しかったのである。事実、入居者の月収は世帯全員で二万五〇〇〇円以上が条件だった。それでも多くの庶民が応募し、当選してから資金繰りを考えるケースもあった。中には、収入をごまかしてまで入居するものもいたという。

ここまで過熱した公団住宅人気は、たんなる憧れだけではなかった。公団住宅に住むことは、「中流」というステイタスを得ることと同義ですらあった。そして「団地族」には、同一階層として一種の帰属意識と連帯感を持つコミュニティが生まれていくのである。

▲昭和32年2月に完成した、東京・武蔵野市の武蔵野緑町団地。この年に入居は1019戸、2DKの家賃は5100円だった。　朝日新聞社

公団の団地建設策が「住」の復興をリード

昭和三一年の日本は、戦後の窮乏生活を脱し、「食」はとりあえず満たされ、「衣＝ファッション」に気を配るレベルに達していた。しかし、終戦直後、全国で四二〇万戸不足と言われた住宅事情は、一〇年経ってもさほど好転せず、二七〇万戸が不足していた。資金や資材難により住宅建築数が伸びないことに加えて、好景気による都市部への労働者の急速な流入（三〇年からの五年間の人口増加率は、東京二〇パーセント、大阪一九パーセント、神奈川一八パーセント）が「住」の復興の遅れに拍車をかけていた。鳩山内閣が「住宅計画一〇ヵ年計画」を打ち出し、住宅政策を強力に推し進めたのも、このような背景のためだった。三〇年七月に設立された日本住宅公団が、その主力を担ったのである。

◀三一年一二月、東京・葛飾区の青戸団地を視察する鳩山首相。翌年四月には、秩父宮・高松宮両妃もここを訪れた。　共同通信社

公団によって次々と建設された郊外団地の住民は、折からの家電ブームの担い手でもあった。隣家がテレビを買うと一斉に〝右へならえ〞だった。だから家電業界では「団地の奥さんをねらえ」が合い言葉になっていた。テレビ本体が買えないため、アンテナだけを立てる家も少なくなかった。それでも、団地のベランダには洗濯機が次々と並んだ。明るい近代的住宅に住み、電化製品に囲まれた「団地族」は、時代の先端を走っていた。カラーテレビが出現した時、団地のアンテナだけはカラーにしたら、次々にカラーテレビに買い替えた、ということしやかな噂も流れたほどだ。

しかし、昭和四〇年代に入ると、人気が急速に萎んでいく。住への要求がレベルアップする中で、公団は2DKを大量に供給し続けた。そして「狭・遠・高」のレッテルを貼られた公団住宅は、敬遠される住宅へと変わっていくのである。

女たちの肖像

初のテレビ料理番組の〝顔〞江上トミのモットーは「台所は、女の仕事場！」

稲葉真弓

最近では、テレビの料理番組は主婦にとってなくてはならないもののひとつだが、わが国初の料理番組、日本テレビの「奥様お料理メモ」が始まったのはこの年、昭和三一年四月のこと。たんに食べられればいいという時代から、素材や栄養、美的センスが問われる時代が来たのだった。

講師は江上トミ（五六）。彼女はフランスの料理学校、コルドン・ブルーで本格的なフランス料理を学んだキャリアの持ち主だが、番組が始まった頃は、大根の葉をぶらさげて登場。「この芯葉はたいへん栄養がございます。私の母は最後の三年間、毎日、大根の葉のふりかけを食べておりました」と庶民的な料理をアピールし、わかりやすいゆったりとした口調と母性的な笑顔がたちまち視聴者の心をとらえて大ヒット番組となった。

当時、女性たちの料理熱はすさまじく、前年の三〇年東京・市ケ谷に開校した江上料理学院には、この番組が始まるやいなや、

▶NHK「きょうの料理」にもレギュラー出演。

主婦や若い女性が殺到、学院の真裏に自宅のあった作家の飯沢匡によれば「私たち裏側に住んでいる家々は、ものすごい大型のウジ虫や蝿に襲われた」というほど、大量の厨芥の出る繁盛ぶりだった。

彼女の料理人生は、生い立ちに大きくかかわっている。明治三二年、熊本県の大地主の家に生まれ、後に母の生家、細川家の家臣にあたる名門・江上家を継いだが、この家が代々の食道楽の家系だった。このため彼女はわずか八歳でマナ板始めの儀式を受け、母親に料理を仕込まれた。熊本第一高女を卒業後、結婚。昭和二年、陸軍技術将校だった夫の巌とともに渡仏。三年間、本格的なフランス料理を学んで帰国した。昭和六年の冬、初めて知人にクリスマス料理を教えたのが評判になったが、その頃はまだ「サロン風」。

才能が開花するのは、昭和二一年福岡に江上料理高等学院を開校してからである。敗戦で軍の仕事を失った夫や家族を支えるために開いた学校は、たちまち西日本一帯で有名になる。二九年には東京進出、テレビ出演のほか、多数の料理本を執筆するなど家庭料理の普及と研究に尽力した。

彼女が料理の基本にしたのは「愛情」だった。加えて「台所は、女の仕事場」をモットーに、教えた女性は全国で数十万人。五五年、心筋梗塞で他界するまで〝料理界の女王〞として親しまれた。

勝者・敗者

米国武者修行で開花したスキー一家の〝英才教育〞猪谷千春、冬季五輪で銀！

阿部珠樹

猪谷千春は「恐るべき子ども」だった。わずか一二歳で出場した昭和一八年の明治神宮大会回転で、大学生を破って優勝し、「天才少年」の名をほしいままにした。

しかし、猪谷は突然変異で生まれた天才ではなかった。スキー理論家の父・六合雄、初の女性スキージャンパーの母・さだの一粒種で、家庭環境も折り紙つきだったが、それ以上に、六合雄の厳しい英才教育が、天性の素質を開花させたのである。しかし、父の「作品」にとどまっていては、しょせん世界のトップで戦うことはできない。初参加した昭和二七年のオスロオリンピックでは惨敗し、限界を思い知ることになる。

その猪谷に飛躍の機会が訪れたのは、アメリカ・ダートマス大学への留学だった。彼の素質にほれこんだアメリカの保険会社社主、コーネリアス・スターの好意によって武者修行の機会を得た猪谷は、勉学のかたわら、最新のスキー技術を学び、昭和二八年には全米学生・回転のタイトルを取るまでに成長した。そして二四歳のこの年、昭和三一年一月、満を持してイタリアのコルチナ・ダンペッツォのオリンピックにのぞんだのである。

猪谷得意の回転は、一月三一日に行われた。試合当日のコースは、低い雲におおわれ、視界が利きにくく、しかも旗門の設定がむずかしかったため、転倒者が続出する荒れ模様の展開になった。

▲3歳の時にスキーを始め、雪を求めて各地を転々とする生活を続けるなど、父親のスパルタ教育にはすさまじいものがあった。

一回目を終わって猪谷は六位。入賞を目標にすれば、二回目は安全運転という策もあったが、猪谷は果敢に攻めた。ほかの選手たちが一分五〇秒台がやっとという中で、たたき出したタイムは一分四八秒五。この好タイムが効いた。上位選手をごぼう抜きして、合計タイムでオーストリアのトニー・ザイラーに次ぐ二位。日本人として、冬季オリンピックで初めてメダルを獲得したのである。猪谷の合計タイムは三分一八秒七。日本から参加したもう一人の選手が四分一七秒二だったのを考えると、猪谷の力が、いかに日本の枠を越えた世界水準のものであったかがよくわかる。

朝日新聞社

▲ひばりファン圧死（1月15日）大阪・千日前の大阪劇場で、美空ひばり公演の入場券を求めるファン約2000人が窓口に殺到、将棋倒しとなり、死者一人、重軽傷者9人を出す惨事となった。

読売新聞社

▲帝国ホテルに宝石泥棒（1月16日）地下の店が襲われ、宝石商が縛り上げられて500万円相当の宝石類が奪われたが、25日までに元プロレスラーの米国人（写真）ら5人が逮捕された。

共同通信社

◀火災予防凧揚げ大会（1月14日）東京消防庁と東京連合防火協会が主催、都内各地の少年消防クラブが日比谷公園で腕を競った。写真は賞品のゆでダコを持つ消防士。

毎日新聞社

◀原子力委員会初会合（1月4日）首相官邸に委員長・正力松太郎ほか委員の湯川秀樹、石川一郎らが出席。その後の定例会で平和利用の促進、5年以内の発電の実現、東海村研究所の選定などを決めた。

共同通信社

▶「ミスター日本」初の選出（1月14日）東京・神田の共立講堂で開かれた日本ボディビル協会主催の選考会で、予選通過者30人の中から19歳の青年が栄冠を獲得。身長168センチ、胸囲は112センチ。

◀南極観測隊、北海道で予備訓練（1月25日）翌年からの観測開始に向けて、3週間にわたる極寒地訓練を網走市近郊の濤沸湖で開始。永田武隊長以下28人の隊員候補者が家屋建設などを行った。

日刊スポーツ

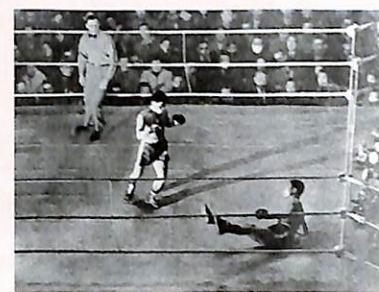
昭和31年1月

1（日）●新潟県の彌彦神社に三万人の初詣で客、石段付近で将棋倒しになり一二四人圧死。●「毎日新聞」に横山隆一「フクちゃん」連載再開。
2（月）●日赤中央病院で乳児一九人が産着に押したスタンプインクが原因で呼吸困難になる。
3（火）●伊豆大島の三原山で昭和二五年以来の大噴火。
4（水）●原子力委員会（委員長・正力松太郎）が初会合。
5（木）●ロックフェラー財団、野口英世の遺品を返還。
6（金）●三菱重工下丸子工場で四二八人に帰休通告。
7（土）●北海道高校長会と高教組、中学の報告書だけの入試方法の取り消し求め道教委を提訴決定。
8（日）●刑事訴訟費用のこげつき三億円、と新聞に。
9（月）●茨城県大子町の小学校で、教師の体罰から学校と親が対立、約一三〇人が同盟休校。
10（火）●労働省、ILOの時短要請に即日反対声明。
11（水）●武蔵野市の井の頭公園の禁漁池で魚釣りの高校生五人に警官が威嚇発砲、一人重傷。
12（木）●東京の赤線従業婦、売春防止法に反対して東京都女子従業員組合連合会を結成。
13（金）●在日米軍、三菱本館ビルなど都内七つの接収ビルを返還と発表。
14（土）●ボディビルの第一回「ミスター日本」選出大会。
15（日）●大阪の美空ひばり公演で観客殺到し一人死亡。
16（月）●米大統領、沖縄米軍基地の無期限管理を言明。
17（火）●日ソ交渉、ロンドンで四ヵ月ぶり再開。
18（水）●五輪派遣「一円玉寄金」が四万円突破と新聞に。
19（木）●早大、ミシガン大と提携し、生産研究所新設のため二億円援助受け取りを決定。
20（金）●広島・長崎両市、人権アカデミー賞を受賞。
21（土）●市川崑監督「ビルマの竪琴」第一部、封切。
22（日）●警視庁、「ボディビル遊び」の実態調査を指示。
23（月）●石原慎太郎の「太陽の季節」が芥川賞に決定。
24（火）●通産省、鉄屑高騰防止に四〇万トン緊急輸入。
25（水）●南極観測隊の北海道訓練開始。
26（木）●伊で冬季五輪開幕（31日猪谷千春、男子回転で初の銀メダル。一位トニー・ザイラー）。
27（金）●国家反逆罪で服役中の「東京ローズ」（アイバ戸栗）、釈放され米国外追放となる。●東ドイツ、ワルシャワ条約機構に加盟。
28（土）●自由党の緒方竹虎、心臓衰弱で急死。
29（日）●東京・世田谷区で牧師などのボランティアによる身障者施設「泉の家」建設が始まる。
30（月）●各地で南極探検寄金運動が起こる、と新聞に。
31（火）●日本宇宙旅行協会、東京・銀座に事務所開設。

ニュース・ファイル 1956

フォト＋日録で再現する366日

衣食住のすべてにわたる技術革新は、“団地族”を誕生させ、日本人の生活を変えてゆく。デパートの中元商戦は戦後最高の売り上げを記録し、神武天皇以来の好況とされた。そして、日ソ国交回復、地球観測年参加、国連加盟と、日本は国際社会への復帰をはたす。

◀南極観測船「宗谷」出航（11月8日）第1次予備観測隊員53人を乗せ、東京・晴海桟橋を出港。翌年1月29日南極の西オングル島に到着、昭和基地を開設する。写真は11日、種子島沖を南下する「宗谷」。
朝日新聞社

報知新聞社

▲ボクシング界の花形激突（2月6日）「東洋無敵」のフェザー級王者・金子繁治に新進の沢田二郎が挑戦。ノンタイトル戦だったが会場は超満員。強打の応酬のすえ、12回、金子が判定勝ち。

毎日新聞社

◀池袋、デパート戦争（2月22日）東京・池袋駅で、国鉄と丸物百貨店共同出資の駅ビルが起工式。建坪約800坪、地下2階、地上8階建て。近くに三越が進出、既設の西武も増築中だった。

▼岡山県児島湾干拓仕上げへ（2月22日）明治以降、5617ヘクタールを干拓したが農業用水不足に悩み、湾内に人造湖造成を計画。この日、潮止め工事が完了した。

読売新聞社

▶黒部峡谷で雪崩（2月10日）富山県の関西電力黒部川第2発電所近くの作業員宿舎を直撃。3メートルの積雪と吹雪の中、必死の救出が行われたが、生き埋めの21人が死亡。

毎日新聞社

毎日新聞社

▶経団連会長に東芝社長・石坂泰三（2月21日）初代・石川一郎の辞任にともない、臨時総会で決定。就任挨拶で中国問題の解決、アジア諸国との提携促進、財界の自主性回復などを訴えた。

WWP

▲初の黒人女子大生、登校3日だけ（2月6日）次第に激化する反黒人デモに、米南部アラバマ州立大は混乱収拾を理由にルーシーさん（右から二人目）を登校停止処分に。125年の同校史上初めての快挙もあえなくついえた。

昭和31年2月

1（水）●警視庁、学校給食用脱脂粉乳横流し事件で長崎県教委課長ら四人をこの日までに逮捕。
2（木）●人気漫画のベストスリーは「サザエさん」「イガグリ君」「轟先生」と新聞に。
3（金）●全日本婦人議員大会開催。五百余人が参加。
4（土）●大阪の上淀川橋梁で特急「つばめ」が銃撃受ける。ガラス片が鈴木茂三郎社会党委員長に。
5（日）●廃校決定の私立東京学園で理事長側が、授業を続ける校長に対し教室封鎖。
6（月）●八幡製鉄労組、女性は結婚と同時に退職するとの会社の新規採用条件を承諾。
●新潮社、出版社初の週刊誌「週刊新潮」を創刊。
7（火）●東京で架空の俳優斡旋会社を作り受験料など一七〇万円を詐取した男を逮捕。
8（水）●外国航空会社が細やかなサービスに着目し日本人スチュワーデスを相次ぎ採用、と新聞に。
9（木）●衆院、原水爆実験禁止要望決議案を可決。
10（金）●黒部川第二発電所付近で雪崩。二一人が死亡。
11（土）●右翼団体二〇〇〇人、紀元節復活大会挙行。
12（日）●「原爆の子」に英国映画アカデミーが国連賞。
13（月）●「踊る宗教」天照皇大神宮教教祖の北村サヨ、二年間の米での布教を終え帰国。
14（火）●ソ連共産党第二〇回大会（25日フルシチョフ第一書記がスターリン批判の秘密報告）。
15（水）●日本陸連、性転換した女性の高校記録を抹消。
16（木）●英下院、殺人罪に対する死刑廃止を可決。
17（金）●「主婦の友」、判型を拡大し付録なしで発売。
18（土）●竹山道雄ら、「日本文化フォーラム」を結成。
19（日）●世田谷区の民家で「爆弾発見」の通報（自衛隊、予算がないと撤去を4月以降にする）。
20（月）●健保改正なら保険医総辞退と日本医師会決議。
21（火）●経団連会長・石川一郎辞任、後任に石坂泰三。
22（水）●児島湾内の人造湖造成で湾口潮止め工事完了。
●東京・池袋の駅ビル（民衆駅）が起工式。
23（木）●東京・神田の共立講堂から出火し内部を全焼。
24（金）●日立造船、スーパータンカー第一船を完工。
25（土）●朝日新聞社、孤児の親探し運動を開始。
●千葉市教委、女性教員を採用せずと発表。
26（日）●岡山・西大寺の裸祭りで一人死亡、三〇人負傷。
27（月）●韓国、綿布など日本商品の輸入を禁止と発表。
28（火）●全日本選抜スキー大会のジャンプで佐々木長九郎（明大）、八九㍍の最長不倒距離。
29（水）●鳩山首相、自衛のためなら相手国の基地を侵略できると答弁。即日取り消す。

朝日新聞社

報知新聞社

◀「脚線美の女王」決まる（3月27日）東京・築地の新橋倶楽部に脚自慢の女性たちが水着姿で集合。審査員の前を50人余が歩いたり、飛び跳ねたりした結果、20歳の美大生が優勝、金一封とナイロン靴下を獲得した。

▲巨人・樋笠、史上初の代打逆転満塁サヨナラ本塁打（3月25日）対中日戦、0対3で迎えた9回裏1死後、リリーフ・杉下の真ん中やや高めの失投を見逃さずに快打。水原監督の代打策にみごとにこたえた。

読売新聞社

▲フランスの人気女優ダニエル・ダリュー来日（3月30日）松竹製作の日仏合作映画「忘れえぬ慕情」に出演。シャンピ監督（左）、共演・岸恵子（右）の出迎えを受けた。シャンピと岸はこの映画が縁となって結婚した。

共同通信社

▲隠された特別出品作（3月23日）東京・日本橋の高島屋で写真展「ザ・ファミリー・オブ・マン展」開催。世界の写真500点余が公開され、天皇も鑑賞した（写真）が、長崎原爆被災写真にはカーテンがかけられていた。

朝日新聞社

◀ドン・コザック合唱団、初来日（3月24日）アメリカから指揮者ジャーロフと男性ばかり22人の白系ロシア人グループが来日。27日からの東京宝塚劇場の公演では濃紺のルパシカ、騎兵ズボンと長靴というかっこうで出演したが、この日は背広姿で練習。5月上旬まで日本各地を巡演した。

朝日新聞社

◀米国務長官ダレス来日（3月18日）カラチで行われたSEATO理事会後、アジア諸国を歴訪、19日東京開催の米国在アジア公館長会議出席を兼ねて訪日。東南アジアの発展に日本の寄与の重要さを訴えた。

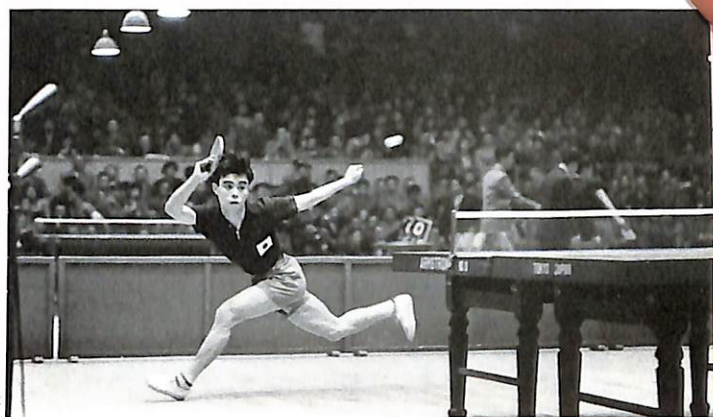
昭和31年3月

1（木）●大津美子歌「ここに幸あり」発売。
●高級タバコ不振で「ピース」「富士」値下げ。
2（金）●岡山県教組、四五歳以上の女性教員一八人への退職勧告は不当人事と県教委へ抗議。
3（土）●彫刻家・イサム野口と女優・山口淑子、離婚。
4（日）●初のインパール派遣遺骨収集団、現地に到着。
5（月）●都教育庁、身長一五〇㌢以下は不採用との東京市時代以来の教員採用内規を取り消す。
6（火）●浅草の博徒葬儀で参列者が銃乱射、三人死亡。
7（水）●福島県常磐炭鉱で煙が逆流、一四人が中毒死。
8（木）●カナダの水族館に阿寒湖のマリモの贈呈式。
9（金）●東京・江戸川区で、婚約者から扶養家族が多いことを嫌われた女性が母親と弟三人を毒殺。
10（土）●米空軍から羽田など四空港の航空管制権移管。
11（日）●群馬県松井田町で神殿風の役場庁舎の落成式。
12（月）●米最高裁、州立大学の黒人入学延期は不可と。
13（火）●警視庁、政財界人への恐喝容疑で雑誌社の社長ら七人を逮捕（政界ジープ事件）。
14（水）●炭労ストに対抗し一三社がロックアウト決定。
15（木）●傷痍軍人会、街頭での白衣募金絶滅運動開始。
16（金）●モロタイ島残留の元日本兵ら一一人、帰国。
17（土）●仙台と福岡間のマイクロウェーブ回線開通式。
18（日）●銚子市教委調査で市内小中生九四人が年季奉公中と判明、大半が人身売買か、と新聞に。
19（月）●日本住宅公団、千葉・大阪で入居者を初公募。
20（火）●能代市で大火。一三八五戸が焼失。
21（水）●ソ連、サケ漁の漁場・漁獲高を制限と発表。
22（木）●MSA協定（相互防衛援助協定）による防衛技術交流のための日米技術協定調印。
●大分県議会、全国初の敬老年金条例を可決。
23（金）●日中文化交流協会発足。理事長は中島健蔵。
●パキスタン、世界初のイスラム共和国に。
24（土）●農林省、八郎潟干拓計画でオランダの技術援助受け入れ契約に調印。
25（日）●巨人の樋笠一夫、中日戦で史上初の代打逆転満塁サヨナラホームラン。
26（月）●牛乳消費普及協会、十円牛乳を一円値上げ。
27（火）●米サウスカロライナ州で日本製繊維品流入防止法が成立（4月16日アラバマ州でも）。
28（水）●国鉄、木製客車三五三〇両の鋼体化工事完了。
29（木）●日本軍の残虐行為を描いた英映画が、日本政府の抗議でカンヌ映画祭への出品撤回と判明。
30（金）●学校給食法改正で中学校にも適用を拡大。
31（土）●ソ連抑留者の家族、千鳥ケ淵で座りこみ開始。

共同通信社

共同通信社

▼**売春防止法公布（5月24日）**昭和27年以来の婦人運動が結実。33年には処罰規定が実施され、ついに赤線の灯が消えた。写真は4月頃の東京の「赤線地帯」吉原。

▲**グレース・ケリー（27）、モナコ大公レーニエ3世（33）と結婚（4月18日）**式はモナコ王宮から生中継、世界の目がハリウッドの名花の華麗な晴れ姿に魅せられた。

劇団チロリン／NHK 提供

▼**福井県の芦原温泉街で大火（4月23日）**早朝、駅前の商店から出火、フェーン現象による強風にあおられて燃え広がり、旅館20軒と商店など市街地の6割が壊滅する大火災となった。

▲**NHK「チロリン村とくるみの木」放映（4月16日）**ピーナッツのピー子、タマネギのトン平などユニークなキャラクターが、野菜と果物の対立を和解させてゆく指人形劇。声優に黒柳徹子ら。

毎日新聞社

共同通信社

▲**国産初の大型乗用車誕生（4月18日）**富士精密工業の自動車ショーに向けた試作車「プリンス」で、6人乗り。同社は昭和41年日産自動車と合併した。

▶**荻村伊智朗、大活躍（4月11日）**東京体育館で開催の世界卓球選手権ダブルスで日本の荻村組がチェコを破って優勝、荻村はシングルス（写真）でも優勝した。

朝日新聞社

昭和31年4月

1（日）●医師会が反対した医薬分業制度、実施。
2（月）●東証・大証で戦後初の債券売買市場を再開。
●町村合併による校区割りの混乱から清水市などの小・中学校で始業式集団ボイコット続出。
●東京で世界卓球選手権、開幕（日本は四種目で優勝）。
3（火）●平塚らいてうら平和アピール七人委員会、米英ソ首脳に原水爆実験禁止勧告文を送付。
4（水）●京都市の運転手殺害事件で真犯人が自首し、少年ら四人の無実判明（地検検事正ら処分）。
5（木）●自民党の初代総裁に鳩山一郎選出。
6（金）●警視庁、『チャタレイ夫人の恋人』の英文単行本の出版元・啓明社社長を逮捕。
7（土）●前年度は四億五〇〇〇万ドルの入超と大蔵省。
8（日）●社会党、小選挙区反対住民大会を各地で開催。
9（月）●初来日のウィーン・フィルが第一回公演開催。
10（火）●寿屋（現・サントリー）、PR誌「洋酒天国」創刊。
11（水）●全国中立労組懇談会設立（後に中立労連）。
12（木）●東大入学式に父母付き添いが圧倒的と新聞に。
●自衛隊幹部の陸上三三㌫、海上六〇㌫、航空六六㌫が旧日本軍出身と参院内閣委で公表。
13（金）●湯川秀樹、原子力委員辞表を委員長に送付。
14（土）●第一回働く婦人の中央集会開催。
●安井都知事、新宿副都心開発案の作成を指示。
15（日）●新潟県での豚の奇病のウイルス確認と新聞に。
16（月）●日本道路公団、設立。
●NHK、「チロリン村とくるみの木」放映開始。
17（火）●ソ連政府、コミンフォルム（共産党・労働者党情報局）の解散を発表。
18（水）●米女優グレース・ケリー、モナコ大公と結婚。
19（木）●公選制を廃止する新教育委員会法案審議で、衆院本会議が深夜まで大混乱（20日可決）。
20（金）●東京・横浜に速達専用の青いポストを設置。
21（土）●東京・調布飛行場の一部、民間空港として開港。
22（日）●八年ぶり再開の北朝鮮からの集団帰還船帰国。
23（月）●赤線業者の全国組織が売春防止法阻止で従業婦一〇万人の自民党入党を計画、と新聞に。
24（火）●東京女子医大で人工心肺使用の心臓手術成功。
25（水）●京都で貧困家庭への修学旅行費貸し付け開始。
26（木）●首都圏整備法、公布。半径一〇〇キロ圏を整備。
27（金）●世界ヘビー級王者のマルシアーノ、引退。
28（土）●ユネスコの万国著作権条約、日本でも発効。
29（日）●ポータブルラジオ普及率が世界二位と新聞に。
30（月）●農作物に全国的な霜害。被害総額数十億円。

証言・あの日この日
秋山　駿（25）

2月20日（月）〈12時、山葉ホールで、「真昼の暗黒」の試写。試写会の人種は、全部が全部亡霊どもだ。自己の正体を失っている。世の中の正体を失っている。自動機械。もっとわるいもの。ナーニ、おまえの方がよっぽどウサンクサカッタロウ〉（秋山駿『地下室の手記』）

「真昼の暗黒」は昭和26年に山口で起きた殺人事件、八海事件を描いた今井正監督の話題作。秋山駿青年は、大学を出て3年経つというのに就職せず、内省の日々を送る。2月23日、〈3時にオフクロと明治座へ行く。新国劇、宮本武蔵。下町、浜町河岸。私はここにいる奴がみんな好きだ。活発で、抜目がなく、懐疑派で、顔色をうかがい、丁重無礼な敬語に自分を隠し、まず下手に出てやがて人を出し抜く。つまり、自己の腕だけで稼ぎ2本の足でしっかり起っているということだ〉。　（坪内祐三）

読売新聞社

▲**初の世界柔道選手権大会開催（5月3日）**東京・蔵前国技館に21ヵ国31人が集合、夏井昇吉6段が優勝した。写真は3位になった22歳のヘーシンク（オランダ）が、3回戦で田村（米）を内股で破ったところ。

▼**NHKがカラーテレビ初公開（5月18日）**東京・世田谷区にある技術研究所で、一般公開に先立って関係者に送・受像の仕組みを見せた。本放送は昭和35年になってからで、米国に次いで世界2番目だった。

共同通信社

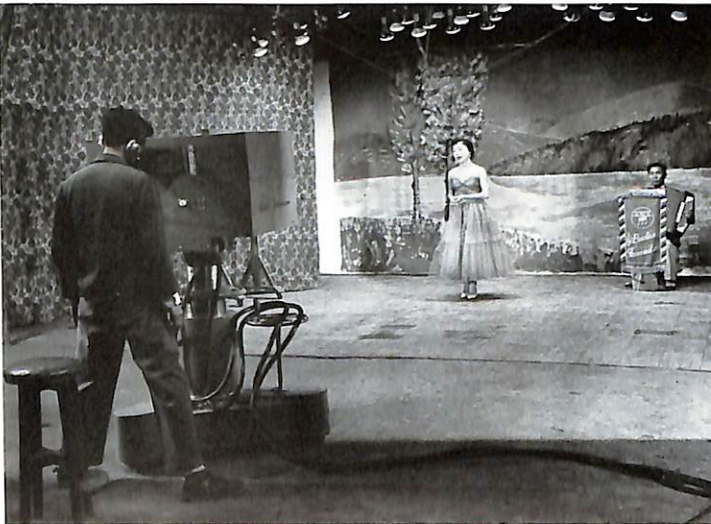
毎日新聞社

▲**日本隊、ヒマラヤのマナスル初登頂（5月9日）**槇有恒を隊長とする2隊がこの日と11日の2度、世界第8位、8125メートルの高峰を征服。写真は9日、山頂に立つシェルパのガルツェン。

共同通信社

▲**科学技術庁スタート（5月19日）**科学技術行政の総合機関として発足。初代長官は正力松太郎。研究機関に日本原子力研究所、航空技術研究所を設置した。

朝日新聞社

▶**京劇、来日公演（5月30日）**満席の東京・歌舞伎座が「ペキン・オペラ」と言われる中国伝統芸能に酔った。写真は梅蘭芳（62）が主演する「貴妃酔酒」。極彩色の衣裳をつけた名優の演技は優艶だった。

昭和31年5月

1（火）●新日本窒素水俣工場付属病院の細川院長、原因不明の中枢神経疾患が多発と保健所に報告。
2（水）●毛沢東、「百家争鳴・百花斉放」を提唱。
3（木）●東京で第一回世界柔道選手権大会、開幕。
4（金）●日本原子力研究所法など原子力三法公布施行。
5（土）●日本短波放送、週五日のナイター中継を開始。
6（日）●大洋の青田昇、四打席連続本塁打の新記録。
7（月）●和歌山県高野町のトンネル内で南海電車火災。
8（火）●主婦連、東京・四谷に主婦会館を開館。
●全国の小・中学生数は過去最高の一八三六万人、各地で二部授業や仮教室使用と新聞に。
9（水）●日本マナスル第三次登山隊、初登頂に成功。
10（木）●競輪運営審、廃止は困難、縮小はかると答申。
11（金）●東京地裁、置屋から逃亡した芸者の荷物引き取りを認める仮処分命令。
12（土）●前年の演奏家来日公演で二〇〇〇万円相当の闇ドル使用の配給会社社長ら検挙。
13（日）●全国一〇六会場で「日本体操祭」開催。
14（月）●警視庁、東日本全域にわたる工業用アルコールでの焼酎密造で三二人をこの日までに逮捕。
15（火）●東大法学部の尾高朝雄教授、ペニシリン注射でショック死（同様の事故が続発）。
●日ソ漁業条約、モスクワで調印。
16（水）●京都市に全国初の夜間保育所が開所。
●衆院で小選挙区法案可決（参院で審議未了）。
17（木）●石原裕次郎初出演「太陽の季節」封切。
18（金）●銀座の工事現場で慶長小判二〇三枚を発見。
19（土）●科学技術庁、発足。初代長官は正力松太郎。
20（日）●NHK、大相撲中継でコマ撮り分解写真使用。
21（月）●米、ビキニ環礁で初の水爆投下実験を行う。
22（火）●九十九里浜での米軍演習による不漁調査開始。
23（水）●百貨店法公布。開業・店舗拡張が許可制に。
24（木）●売春防止法公布（翌年4月1日施行）。
25（金）●尼崎市連合婦人会、「太陽の季節」の上映反対運動を全国の婦人団体に呼びかける。
26（土）●梅蘭芳ら中国の京劇代表団、来日。
27（日）●「読売新聞」が賞金五万円の「日曜クイズ」連載。
28（月）●都銀六行の従業員組合、全国銀行従業員組合連合会を脱退（7月26日全銀連解散）。
29（火）●東京・銀座に開店した阪急デパートが店頭にライオン・虎・熊の子を飾る。
30（水）●小児麻痺予防薬ソークワクチンを初接種。
●新潟・福井の育成者がコシヒカリを新種登録。
31（木）●巨人の川上哲治、初の二〇〇〇本安打を達成。

▲ペニシリン・ショック(6月6日)北海道で、自分の腕に注射した医師が、50分後に死亡。頻発するショック死に厚生省は7月、やっと規制に乗り出した。写真は氾濫する店頭の製剤。

朝日新聞社

▼「原爆乙女」帰国(6月17日)原爆でこうむった傷の治療のため、前年5月アメリカに招かれていた広島の女性25人のうち9人が、手術後死亡した一人の遺骨とともに羽田空港到着。

CORBIS-BETTMANN/PPS

◀大関若ノ花、初優勝(6月3日)大相撲夏場所千秋楽で、大晃を豪快な上手投げで破り12勝3敗で栄冠。小兵ながら強靭な足腰から鋭い技を繰り出して「土俵の鬼」とおそれられ、栃錦とともに栃若時代を築き上げた。

読売新聞社

◀盲目の箏曲家・宮城道雄、事故死(6月25日)大阪公演に向かう途中、列車から転落、愛知県の病院に運ばれたが出血多量で死亡した。62歳。17弦箏を創案するなど天才とたたえられた。代表作は「春の海」。

朝日新聞社

▼株価、天井知らず(6月6日)民間企業の設備投資が実質で対前年度比4割も伸び、東京株式市場はこの日、ダウ平均株価を初の500円台に乗せた。この年、一気に「神武景気」が来た。

朝日新聞社

▲マリリン・モンロー、今度は劇作家と結婚(6月29日)「セールスマンの死」で著名なアーサー・ミラーとの結婚を米国のジャーナリズムは「偉大な頭脳と偉大な肉体との結婚」と評した。

共同通信社

昭和31年6月

1(金)●教委法審議で乱闘の参院で衛視一〇人が負傷し抗議声明(2日警官五〇〇人導入し可決)。

2(土)●警視庁、この日までに風俗営業法違反で深夜喫茶業者三三人を検挙。

3(日)●大相撲夏場所で若ノ花が初優勝。
●学校医らが虫歯・寄生虫・トラコーマの三大病撲滅運動五ヵ年計画を開始、と新聞に。

4(月)●被爆者団体、原爆被害者援護法制定を陳情。

5(火)●インドシナ沖で横浜の弾薬輸送船爆発と入電。

6(水)●七八〇〇万円の公金横領し失踪した農林省事務官が自首(23日茨城農共連会長を逮捕)。

7(木)●全労、週四二時間の時短運動推進を決議。

8(金)●曲線美が出るナイロン製水着が人気と新聞に。

9(土)●米、沖縄軍用地接収のプライス勧告通達。

10(日)●日本、サッカーのメルボルン五輪出場が決定。

11(月)●ベネチア・ビエンナーレ美術展の日本館開館。

12(火)●東大法学部自治会「緑会」、和紙・毛筆が一般的な履歴書の、ペン字・横書き運動を提唱。

13(水)●東洋工業、中国とオート三輪輸出契約を締結。

14(木)●武蔵野市の井の頭自然文化園に侵入した男性がインド象の花子に踏み殺される。

15(金)●茨城県東海村に日本原子力研究所発足。
●プロ野球新人選手の報酬限度発表。契約金含め高卒一六〇万円、社会人・大卒二四〇万円。

16(土)●旭化成に業界初の定年後の年金制度と新聞に。

17(日)●米で治療の「原爆乙女」九人が帰国。

18(月)●外務省、在日ソ連漁業代表部をソ連の在日公的機関として承認。

19(火)●警視庁、「愚連隊取締本部」を設置。

20(水)●沖縄全土で一六万人がプライス勧告反対集会。

21(木)●岐阜県にこぶし大の雹が降り約五〇人が負傷。

22(金)●米軍接収地は三億四〇〇〇万坪と外務省発表。

23(土)●エジプト初代大統領にナセル選出。

24(日)●京都の寺社が観光税に反対し、拝観拒否開始。

25(月)●琴演奏家・宮城道雄、急行列車から転落死。

26(火)●乳製品消費が戦前の四倍、と経企庁発表。

27(水)●周恩来、日本人戦犯一〇一七人の釈放を発表。
●東京・日比谷で初の野外オペラ「椿姫」上演。

28(木)●ポーランドのポズナニで反政府武装蜂起。

29(金)●マリリン・モンローとアーサー・ミラー結婚。
●神奈川県児童審議会、映画「処刑の部屋」(川口浩主演)の一八歳未満入場禁止を決定。

30(土)●新教育委員会法公布。公選制から任命制に。
●東大イラク・イラン遺跡調査団出発。

「現場」を歩く 弥彦

参拝客一二四人圧死の大事故にも衰えない信仰心の〝原点〟

山本徹美

◀彌彦神社の随神門。現在は、石段の両脇にコンクリート製の垣が設けられている。
▼事故の直後、収容された遺体。人出による戦後最大の事故だった。 読売新聞社

但馬一憲

昭和三一年一月一日午前零時二〇分頃、新潟県西蒲原郡弥彦村にある彌彦神社で初詣での参拝客が石段の下に転落、一二四人が圧死、九四人が重軽傷を負う事故が発生した。

当時の「朝日新聞」が報じる。

「同神社で拝殿途中の石段上の随神門わきのヤグラから福モチをまいたところ、一たん帰りかけた者も引き返してモチの争奪となり、(中略)最盛時の人出であったためモミあう人込みと、押し寄せる人波とは大混乱を起し、石段上の玉ガキを崩して数百の人々がどっと約二メートル半下に雪崩れおち、(中略)人出による事故として戦後最大の惨事である」

彌彦神社の本殿と拝殿は屋根つき塀で四方を囲ってあり、拝殿手前には約三三〇〇平方メートルの広場が設けてある。そこへは「随神門」をくぐり抜けて入るのだが、参道から来た人は幅五メートル、一五段の狭い石段を登らなくてはならない。広場にいた群衆と石段あたりにいた群衆が唯一の出入り口である随神門めがけて激突、その勢いに圧倒されて押し出された人々が犠牲になったかっこうである。

きっかけとなったモチまきは同神社初の試みだった。前年、紅白餅を配ったのが好評につき企画されたのである。が、参拝者は前年より一万人ふえて、三万人だったのに対し、その整理に配備された警官は二人しかおらず、警備面での不備が惨事につながったことは否めない。

新潟県一の参詣者数

平成九年九月、彌彦神社を訪ねてみた。

随神門手前の石段両脇にはコンクリート製の垣が増設してあった。門前と大地の落差は大人の背丈程度。こんなところで一二四人も絶命したとは、不思議な気もする。永田忠興権宮司(五七)が現状を語る。

「モチまきは即座に廃止されたと聞いています。参道の幅員を倍に拡張、石段に垣を設けるとともに歳末にはロープを張り、照明器具で足下がよく見えるようにした。参道は一方通行で、拝殿に到達後は、左右の脇道を通って帰るようにしてあります。関係者誰しも三箇日は最も緊張します」

大事故にもかかわらず、参詣者数は翌年以降もふえ続け、ここ数年、三箇日における総数約二五万～三〇万人。新潟県下では不動の首位を保っている。弥彦村の人口は約八〇〇〇。古老が胸を張る。

「村は小さいが、彌彦神社には由緒と伝統がある。『おやひこさま』のもとで暮らせるのを、誇りに思っています」

同社の祭神は天香山命(天照大神の曾孫)で、一三〇〇年以上の歴史を持つ。JR弥彦線は神社に向かう方が「上り」で、東京方面が「下り」。

毎朝、身を浄め、参拝してから食事をするという老女と並んで、静まり返った境内を歩いていると、なんとなく万葉時代にいるような気がしてくるのだった。

ベストセラー

戦慄のナチス強制収容所！体験ルポ『夜と霧』の衝撃

ナチスの強制収容所の実態をなまなましく描いた『夜と霧』が翻訳刊行され、大きな反響を呼んだ。原著者は心理学者のヴィクトール・フランクル。ユダヤ人であるという理由だけでアウシュビッツ収容所にとらわれながらも、奇蹟的に生還、内部を報告することができた。いかにも心理学者らしく、冷静な観察をまじえた叙述は、かえってこの強制収容所の無残さを浮かび上がらせた。

さらにこの本には、アウシュビッツだけでなく、ベルゼンやダッハウなどの強制収容所の実態報告も掲載されている。

数十枚の戦慄的な記録写真を含めて、地味な表紙からは想像できないほど、衝撃的な内容を持つ本だった。

一方、敗戦からの復興を軌道に乗せてきた日本経済の、いわば中核を担うサラリーマンを主人公に、男性の悲哀を描いた石川達三の『四十八歳の抵抗』が人気を集めた。新聞小説として連載中から、主人公の動静が多くの男性の関心を呼んだ。ふだん漠然と夢見ている、会社を中心とした日常生活からの逃避や新鮮な恋が、いかにも実現できそうな気配を、この物語が漂わせていたからである。なんともリアルな男性論でもあった。

リアルというと、この年、これまでにないタイプの自伝が刊行されて話題となった。新派の女優として確固たる地位を占めていた森赫子の『女優』である。性的な経験についても相手の男性がイニシャルで記されており、実際には誰と特定できたから、話題騒然となった。しかし内容は暴露をむねとしたものではなく、一人の女優のデビューから、目を患って苦しんでいる現在までを淡々と書いたもので、一編の小説のようだった。

●昭和31年のベストセラー

順位	書名（著者／出版社）
1位	『太陽の季節』（石原慎太郎／新潮社）
2位	『帝王と墓と民衆』（三笠宮崇仁／光文社）
3位	『異性ノイローゼ』（加藤正明／光文社）
4位	『あなたはタバコがやめられる』（H・ブリーン／早川書房）
5位	『夜と霧』（V・フランクル／みすず書房）
6位	『モゴール族探検記』（梅棹忠夫／岩波書店）
7位	『大菩薩峠』（全8巻／中里介山／河出書房）
8位	『女優』（森赫子／実業之日本社）
9位	『マナスル登頂記』（槇有恒／毎日新聞社）
10位	『細胞生活』（杉浦明平／光文社）

全国出版協会出版科学研究所

▲『夜と霧』（250円）

▲『四十八歳の抵抗』（新潮社、250円）

▲『女優』（230円）

日本近代文学館提供

スターと名場面

感動を呼んだ「ビルマの竪琴」そして裕次郎、スターダムへ！

戦争の知られざる一面を描いた「ビルマの竪琴」（市川崑監督）が感動を呼んだ。激戦地のビルマ（現・ミャンマー）で、終戦直後に玉砕していった部隊に出会い、衝撃を受けた水島上等兵（安井昌二）は、その後も死屍累々たる戦地を目撃、僧となって戦死者の魂を慰めようと決意する。その水島に日本への帰還をうながす、同じ部隊の仲間たち。戦争の悲劇を浮き彫りにした傑作だった。

また、裁判がリアルタイムで進行中の八海事件を題材にした映画「真昼の暗黒」（今井正監督）が話題になった。主犯と目されながら冤罪を強く訴えていた被告が、面会に来た母親に向かって「最高裁があるんだぞ！」と叫ぶラストシーンは、社会に突きつける現実の叫びだった。

混沌とした現実社会を反映した"太陽族"映画「狂った果実」（中平康監督）で、石原裕次郎がこれまでの邦画にはなかったタイプのスターとして、鮮烈な主役デビューを飾った。北原三枝とのコンビも、日活青春映画に全盛期をもたらす大きな要因となった。

この年、ほかに次のような映画が、注目された。かっこ内はおもな出演者。「処刑の部屋」（若尾文子）／「居酒屋」（マリア・シェル）／「あなた買います」（佐田啓二）／「ヘッドライト」（ジャン・ギャバン）

現代ぷろだくしょん提供

▲「真昼の暗黒」で、実際に最高裁で審理中の事件について冤罪を激しく主張する弁護士（中央・内藤武敏）。

▶「狂った果実」でヒーローに躍り出た石原裕次郎（左）と北原三枝（右）。

日活提供

▲「ビルマの竪琴」で、日本への帰還を断念し、豊かな大地を行く水島上等兵（安井昌二）。行く先々で戦争の傷跡を見る。

日活提供

モノ語り'56

テトラパック牛乳、白髪染め「パオン」、合成洗剤「トップ」"もはや戦後ではない"ヒット商品！

▶**足袋と靴下を一体化した"すぐれもの"**　冬のふだん履きに、下駄や草履も履ける温かい靴下を、という一般の要望にこたえて、福助足袋（現・福助）が開発した「タビックス」が、初年度7万足から、年々100万足単位で売り上げを伸ばす大ヒット商品となった。素材は東レのウーリーナイロンで、履き心地がよかった。価格はその厚さによって違い、80〜100円だった。

▲**コリントゲーム式野球ゲーム**　一人数個の持ち玉を、スタート地点からはじいて、高得点の穴をねらい、その総得点を競う野球ゲームが人気を呼んだ。最も得点の高いホームランをねらうテクニックが要求されたが、この後、野球ゲームはさらに緻密なものになっていった。

日本玩具資料館蔵

▲**眉毛を濃くすることもできた育毛剤**　頭部以外の部分に生えるべき毛を、生育促進させるためのクリーム状の塗布剤「ミクロゲン・パスタ」が啓芳堂製薬から3グラム入り300円（6グラム入り500円、12グラム入り900円）で発売された。無毛症に悩む女性や、ひげや胸毛が薄いといった悩みを持つ男性（現代の若者とは逆の悩みだが）のニーズを見こんでの商品だったが、眉を濃くするお洒落にも活用され人気商品となった。

▶**何でも落ちる合成洗剤**　粉石鹼全盛の時代に、しつこい汚れも落とす合成洗剤「トップ」が、ライオン油脂（現・ライオン）から230グラム入り50円（1キロ入り200円）で発売された。ウールや化繊、木綿など、どんな素材でもオーケーという洗剤だったが、粉石鹼に比べて泡立ちがよくないなどの点から、一般になじむには時間がかかった。

▲**牛乳にもワンウエーパックの登場**　牛乳は、瓶で配達し空き瓶を回収という販売方式が普通だった時代に、四面体の紙容器による、ワンウエーパックの「名糖テトラ牛乳」が協同乳業から発売され、話題を呼んだ。協同乳業は、テトラパックマシンをスウェーデンから10台も輸入して、ワンウエー時代の先陣を切った。180ミリリットル入り10円だった。

◀**お茶づけのパッケージ・イメージ**　永谷園本舗（現・永谷園）の「お茶づけ海苔」が、歌舞伎の定式幕をモチーフにしたデザインとともに商標登録され、お茶づけの定番としての地位を確固たるものにした。昭和27年に、それまでの"海苔茶"にあられを入れて香ばしくした大胆なアイディアが功を奏して、この年までには圧倒的な人気商品となったのである。1袋10円だった。

◀**"四十八歳の抵抗"に役立った白髪染め**　ちょっと白髪がまじった状態がロマンスグレーとしてもてはやされたのは、ちょうどこの頃。しかしできれば若々しく見せたいという思いは強く、日本で初めての染毛料「粉末染毛料パオン黒色」が山発産業から発売されてヒットした。6グラム入り520円で、現在までこの価格は不変。発売当時は高価な商品だった。

人物クローズアップ

石橋湛山（七二）

東条にもGHQにも屈しなかった〝言論人〟宰相、六三日目の引き際

◀政治家としての石橋湛山の目標は、冷戦路線の克服と福祉国家の建設にあった。日中米ソの平和同盟が念願だったという。

「日ソ共同宣言」調印を花道に、政界引退を表明した鳩山一郎（七三）に替わり、昭和三一年一二月二〇日、石橋湛山（七二）が首相に指名され、二三日、石橋内閣が成立した。

石橋湛山は、明治一七年九月二五日、東京市芝区芝二本榎（現・港区高輪）生まれ。四〇年、早稲田大学文学部哲学科を首席で卒業。翌年、同宗教研究科を修了。「東京日日新聞」（現・「毎日新聞」）を経て、四四年、東洋経済新報社に入社した。

〝言論人〟石橋湛山はここからスタートを切るが、その基本思想は、政治的には小日本主義、経済的には自由主義によって貫かれている。具体的には、当時の日本が推進した満州（中国東北部）支配を終始一貫非難し、満州放棄論を展開したこと、さらには、大東亜共栄圏を否定したことである。外部からの圧力は激しかったが、石橋は少しも屈せず、社長となった東洋経済新報社の雑誌に対し、東条英機首相が直接名ざしで同社の解散を匂わせるなどの〝攻撃〟が軍部からあった時も、「いわゆる軍部に迎合し、ただ東洋経済新報の形だけを残したとて、無意味である」（『湛山回想』）と記している。

昭和二一年、石橋は請われて民間から第一次吉田内閣の蔵相に就任。それによって東洋経済新報社社長を辞任した。二二年、衆議院議員に当選したが、石橋にとって思いもかけなかったのが、GHQ（連合国総司令部）による公職追放だった。二六年、追放が解除され、翌年には再び衆院議員に復帰した。

▶一二月二三日、認証式を終えた石橋内閣。前列左・岸信介（外相）、右・池田勇人（蔵相）。最後列右端が、石橋擁立を推進した腹心の石田博英（官房長官）。党内最大派閥の岸派が池田蔵相に難色を示すなど、組閣は難航した。また、石橋を支持した各派の要求もぶつかり合い、石橋の望みとは裏腹に、その後の派閥政治に道を開く結果となった。

毎日新聞社

毎日新聞社

▲辞任後も、石橋は日中友好に精魂を傾けた。昭和39年11月、『中国の赤い星』の著者、E・スノー（左端）と。

組閣を終えた石橋が、施政方針として掲げたのが、次の「五つの誓い」だった。①国会運営の正常化、②政界および官界の綱紀粛正、③雇用の増大と生産増加、④福祉国家の建設、⑤世界平和の確立。

しかし、組閣から約一ヵ月後、風邪がもとで肺炎を起こした石橋は、さらに言語障害を併発。医師団に二ヵ月間の静養を宣告されたことから辞意を表明、そして三二年二月二三日に石橋内閣は総辞職した。在任わずか六三日間だった。

石橋の引き際は、歴代の政権担当者が政権を手放す際に、恋々とそれに固執するのに対して、新聞各紙が「憲政史上に好先例を残す」と書いたように、鮮やかなものだった。しかし、戦前は東条首相に真っ向から立ち向かい、戦後はGHQによる公職追放に猛烈な抗議をして、一歩も引かなかった硬骨漢・石橋の辞任は、とりわけ、戦後民主主義の確立と清新な政治の出現を希求する人々に、大きな衝撃を与えた。だが、石橋の姿勢は、首相辞任後も変わることはなかった。後継の岸信介は、右傾化路線を歩みつつ、日米安保の改定を推進したが、石橋はそれに強く反対、日本訪問のためフィリピンのマニラまで来ていたアイゼンハワー・アメリカ大統領に、日本には来ないでほしいという電報を打っている。

もし、石橋政権がそのまま続いていたらどうなったか。政治評論家の西巻昭氏は、こう推測する。

「昭和三五年くらいまでに、日中国交回復がなされていたかもしれません。石橋は、日ソの次は日中と考えていました」

石橋湛山の死は昭和四八年四月二五日。八八歳だった。

▲一〇月三一日、キプロス島から出撃した英仏空爆隊の攻撃により被害を受けた、スエズ運河の港湾施設。英仏両国は、同日招集された安保理事会でも拒否権を行使した。 CORBIS-BETTMANN/PPS

決定的瞬間

「運河国有化宣言」に報復！英仏がエジプトを攻撃したスエズ戦争一〇日間の"戦果"

▲劇的なスエズ運河国有化宣言から2日後の7月28日、首都カイロで市民の熱狂的な歓呼にこたえるナセル大統領。 WWP

全長一六二・五キロのスエズ運河（一八六九年開通）は、アジアとヨーロッパを結ぶ海上交通の要だ。

この運河建設はF・レセップス（一八〇五～一八九四）の発案により、資金の多くはフランスが負担した。土をラクダで運ぶなど、砂漠での工事は困難をきわめ、エジプト人に膨大な犠牲者（一説によると一二万人死亡）を出した。

開削されたスエズ運河は、フランスとイギリスによって運営され、利益の大半は両国に流れこんでいた。一方、エジプト人は「運河はエジプトに属するのであって、エジプトが運河に属するのではない」（エジプト副王イスマイル・パシャの開通式における演説）という言葉に代表される感情を抱き続けていた。

一九五六年七月二六日、エジプトのナセル大統領（三八＝同年六月大統領に選出）は、アレキサンドリアで行われた革命四周年記念の演説で「スエズの国有化」を宣言。この背景には、同年二月にアスワン・ハイ・ダムの建設資金をアメリカ、イギリス、世界銀行が出資する約束が交わされながら、ナセルの非同盟中立路線に反発したアメリカが援助を凍結するという経緯があった。約束がわずか五ヵ月で反故にされたため、ナセルがその報復としてスエズ運河の国有化を打ち出したのである。当然、イギリスとフランスは猛反発する。しかしそれ以上に重要なのは、石油は中東からスエズ運河を通ってヨーロッパに入ってくるということだ。スエズ運河をエジプトに支配されることは、石油をナセルに支配される、という意味を持っていた。

このスエズ運河をめぐる紛争は、イスラエルをも巻きこんでいた。エジプトによって、中東への出口であるアカバ湾を封鎖され、自国の存立基盤が危ぶまれていたからだ。

一九五六年一〇月二九日、国境付近にいたイスラエル軍三万がシナイ半島に殺到した。一〇月三〇日、ナセル大統領は全土に総動員令を発して応戦に出る。

この事態を見ていた英仏両国は「二四時間以内に停戦しなければスエズ運河を守るためにスエズ地帯に上陸する」と通告。一〇月三一日、期限の切れる四時間前にキプロス島から発進した英仏空軍は、運河地帯への爆撃を開始した。

しかし、英仏両国の強引な参戦は国際世論の反撃を受ける。イスラエルと共謀し、エジプトを再び実質的な植民地にしようという意図が読みとれたからだ。

一一月六日、英仏両軍はスエズ地帯に上陸、ポートサイドを占領した。しかし、翌七日に英仏およびイスラエルの三国は無条件停戦に応じることとなる。スエズ運河の主権は、こうしてエジプトに帰した。局地戦では英仏の勝利であったが、イギリスではイーデン首相が内外の批判をあびて辞任、フランスはアルジェリアの独立問題を抱えて苦悩を深めていく。結局戦争全体としてはエジプトの勝利であり、「ナイルのヒトラー」と欧米で嫌われていたナセルは、まさに国民的英雄となった。

英仏軍によって銃弾を撃ちこまれた、港湾に建つ灯台の窓ガラス。その後ろに広がるスエズ運河。この写真は「運河の所有および管理の権利はどこの国にあるのか」が激しく争われた、スエズ戦争の決定的瞬間である。

美の出会い

「ワだばゴッホになる!」ベネチア・ビエンナーレで棟方志功、グランプリ獲得

昭和三一年六月一五日、第二八回ベネチア・ビエンナーレ版画部門のグランプリ(国際版画大賞)が、棟方志功(五二)に決まった。

一八九五年にイタリアのベネチアで開始されたビエンナーレは、世界の一流作家が参加する国際美術展である。昭和二七年から参加していた日本は、自前の展示場所もなく、イタリア館の一室を借りていたのだった。ところがこの年、ブリヂストンの社長・石橋正二郎が、日本館建設のための費用を寄付した。建築家の吉阪隆正の設計により、美しい日本館が竣工。「こんな建物を寄付できる人がいる日本がうらやましい」などと各国から注目された。

日本館は六月一一日に開館。オープニング・レセプションは、あいにくの雨にもかかわらず、三〇〇人を超す参会者でにぎわった。日本から出品した作家は、絵画の須田國太郎、脇田和、山口長男、版画の棟方志功、彫刻の山本豊市、植木茂らであった。日本特有の抒情を持つ脇田、ヨーロッパにない色感の須田、東洋的な抽象画の山口らの作品に好意的な声がささやかれたが、棟方の「柳緑花紅頌」「釈迦十大弟子」などの大作版画の迫力に、驚異と絶賛の声が集まった。

六月一四、一五日の二日間、各賞の選考委員会が開かれ、日本代表の富永惣一を含む二六名の委員による投票が行われた。その結果、絵画大賞はフランスのヴィヨン、彫刻はイギリスのチャドウィクに決定。そして版画は一六票の絶対多数で棟方が大賞を獲得、賞金の二五万リラを得た。この知らせを東京・杉並の自宅で受けた棟方は、アトリエに駆けこみ、神棚の前に吊るされた魚住銅鑼をジャンジャンとたたき、亡き父母と喜びを分かち合ったという。

すでに昭和二六年のスイス・ルガノ第二回国際版画展で優秀賞、昭和三〇年のサンパウロ・ビエンナーレでマタラッツォ賞を受賞していた棟方だが、ベネチア・ビエンナーレのグランプリ受賞で、まさに「世界のムナカタ」になった。しかし、もともと版画家の地位が低い日本では、「西洋人の異国趣味にすぎないのではないか」という声が多かった。そうした雰囲気の中で、民芸運動の指導者・柳宗悦は「芸術新潮」で次のように語っている。

「西洋人はやっぱり棟方のものなんか見るのはうぶだから、うぶの気持で見るんだろうな。素直に受け取る。日本人の方が受け取り方が素直でない」(昭和三一年八月号)

棟方の版画を最初に認め、近来まれにみる大器だとしてみいだしたのは、この柳である。明治三六年、青森市の刃物鍛冶の三男として生まれた棟方は、大正一〇年に青森地裁の給仕をしていた時、友人の小野忠明から雑誌「白樺」に載ったゴッホの名作「ひまわり」を見せられて、感動のあまり「ワだばゴッホになる!」と叫んで画家を志したという。しかし、赤貧洗うがごときその後の道のりは、容易ならざるものがあった。

そうした折の昭和一一年、陶芸家の浜田庄司と国画会展に来た柳は、ここで棟方の作品「大和し美し」と出会う。さっそく、柳は京都の陶芸家の河井寛次郎に「バケモノガデタ　スグコイ」と電報を打って呼び出した。次いで柳は日本民芸館で、この作品を二〇〇円で買い上げる。食うことにも事欠いていた棟方にとって、あまりにも大金だった。それ以上に、柳・浜田・河井との生涯にわたる交遊ができたことは、棟方芸術を開花させるうえで、大きな力となった。

しかし、棟方が日本国内でも広く知られ、高い評価を得るようになったのは、昭和四五年のこと。芸術院会員を飛ばして文化勲章の受章が決まってからである。

▲「宇宙頌・東西の柵」昭和28年。木版・彩色、106.2×99.8センチ。左の南北の柵と一対をなし、天井板画として制作された。グランプリ受賞記念に、ビエンナーレ事務局の保存作品に指定された。

▲「宇宙頌・南北の柵」昭和28年。木版・彩色、106.2×99.8センチ。宇宙頌は、青竜(東)・白虎(西)・朱雀(南)・玄武(北)という、四方の天を守る神を題材とし、天人の肌に四神の紋を描いている。

濱田益水

▲アトリエで制作中の棟方志功。ゴッホに傾倒し、縄文的とも称される奔放な「板画」作品を生んだ。昭和50年、72歳で永眠。

島津創業記念資料館 京都市

日本における近代科学の黎明期に作られた〝お宝〟機器の数々

桑原茂夫

科学機器製造の島津製作所が、創業期の建物をそのまま残して博物館にした「島津創業記念資料館」は、近代科学の黎明期における、人々の驚きと喜びを、具体的なモノで語るワンダーランドだ。

昔の湿式タイプと思われるカメラ、石油を光源とする幻灯機、携帯用の電流・電圧計、台秤の模型、各種顕微鏡、映画の前身である動画装置、潜望鏡の模型、金属球による衝突実験装置、初期のエックス線撮影装置の実物など、五つに分かれた展示室に、総計六百点余の〝宝物〟が展示されている。

場所は、京都の鴨川そばの木屋町二条。実はこのあたりは、明治初期における技術革新の中心地であり、次代を担う子どもたちへの科学教育が、熱心に繰り広げられたエリアなのである。

当時京都府知事が、ドイツのワグネル博士を招いて欧米の最新の科学技術の導入をはかったのだが、そこで必要とされたのは、新しい機器を具体的に作り出す技術者だった。島津製作所の創業者となる島津源蔵（初代）は、その役割を担って時代の表舞台に躍り出たのである。もともとの仕事は仏具製作。モノに対するセンスと仕上がりの精密さを要求される仕事で、その能力を見こまれたわけだ。

初代源蔵が残したモノの中で異彩を放っているのが、〝理化器械〟のカタログである。ここでその実物が見られるのだが、明治一五年に刊行された、おそらく日本で最も古いカタログ（イラスト入り、価格つき）ではないかと言われている。このカタログに記載された各種実験装置も面白いが、味のあるイラストやレイアウトからも、この人の幅広いセンスを実感することができるのである。

やがて、長男の二代目源蔵になると、技術者としての力量は、日本の十大発明家の一人として宮中に招かれるまでに上がった。たとえば、レントゲン博士がエックス線を発明した翌年にはエックス線の撮影に成功しているのだ。

そしてここには、初期のエックス線撮影機が展示されている。大がかりで素朴なものだけに、ほとんど魔法のような透過術に胸躍らせていた医師や技師たちの興奮が伝わってくるようだ。

意外な展示物もあった。マネキン人形である。実はマネキン人形を初めて国内で製造したのが、この島津製作所で、その名も〝島津マネキン〟と称していたというのだ。昭和の初め、フランスから輸入していたマネキン人形が、現在の貨幣価値に換算して一体六〇〇万円もしていたので、科学教材で人体模型を作っていた島津製作所に製作が依頼されたというわけである。

このような、時の流れを感じさせるモノも少なくないが、今も手にすれば興味尽きない装置が数多くあり、科学とはもともと驚きと喜びにあふれたものであることを、あらためて知るのである。

▲大正7年に開発されたエックス線装置。左側の装置がエックス線の起動装置で、中央が撮影装置。医師はこの前に立って直接、透過像を見た。

▼第2展示室の様子。カメラやエジソンの蠟管式蓄音機、幻灯機などが並んでいる。どれもユニークで面白い。

▲資料館の建物は、明治21年から27年に完成したもので、当時の外観をそのまま残している。

▲各種科学装置。右側の円筒形は、絵が動いて見える装置。左奥はモノをそのまま投影する幻灯機。手前は鉱石ラジオ。

●島津創業記念資料館
京都市中京区木屋町二条下る
☎〇七五―二五五―〇九八〇
市バス河原町二条下車、徒歩二分
開館時間＝九時半～一六時半
休館日＝水曜日、年末年始

2月6日、「週刊新潮」スタート
新聞社を震撼させた出版社系の創刊ラッシュ
〝週刊誌時代〟が始まった!

◀石坂洋次郎の読み切り小説「青い芽」。石坂は昭和22年の「青い山脈」以来、新聞小説界の大家となっていた。

▶サラリーマン目白三平シリーズの、読み切り第一回「目白三平の逃亡」。作者の中村武志は、国鉄職員でもあった。

▲谷崎潤一郎「鴨東綺譚」。斯界を瞠目させた文豪の連載だったが、モデル問題をめぐり、六回で中断する。

▲人気作家・大佛次郎の「おかしな奴」連載第一回。大佛はこの年、「朝日新聞」にも長編「ゆうれい船」を連載、旺盛な筆力を示した。

▲五味康祐「柳生武芸帳」。33年11月まで長期連載したが、膨大な筋書きになりすぎ、未完に終わる。

▲「週刊新潮」創刊号（本文64ページ、グラビア16ページ）。
大宅壮一文庫提供（6点とも）

東京・山手線の車両一両で一冊見かけたら、その週刊誌の発行部数は五〇万部だという説がある。「週刊新潮」の創刊された昭和三一年当時もそうだったかはさだかではないが、庶民やマスコミに与えた衝撃はたしかに大きかった。それまでの新聞社系週刊誌の枠を打ち破り、週刊誌全盛時代の呼び水となったのである。

▲昭和34年には週刊誌は73誌にふえ、大量生産・販売態制も確立した。駅の売店でも、前面を占めるようになる。 長野重一

文芸出版社が生み出した型破りの記事作りと文体

「全読書界注目の裡に誕生した週刊新潮。サラリーマンの読書と生活に!!」

「週刊新潮」（二月一九日号）が創刊された昭和三一年二月六日の新聞朝刊には、派手な宣伝コピーの広告が掲載されていた。そのせいか、当日は有楽町の街頭スタンドでこの週刊誌を出勤途中に購入し、帰りの国電の車内で読みふけるサラリーマンの姿が目立った。価格は三〇円。かけそば一杯と同じ価格だった。

創刊号の表紙は、ほとんど無名の画家・谷内六郎（三四）の少女の絵に、「上総の町は貨車の列　火の見の高さに海がある」の一句だけ。東郷青児などの大家が描く女優の肖像画を表紙に使っていた「週刊朝日」とは初めから違っていた。

さらに、読者を驚かせたのが、巻頭記事の「タウン」である。中村メイコの婚約、舞台で活躍するミヤコ蝶々の近況、直木賞を受賞した藤原寛人（新田次郎）のオシドリ夫婦ぶりｅｔｃ……。硬派の記事がトップにあるのが〝王道〟の当時の週刊誌にあって、巻頭に芸能ネタが来るなど奇想天外なことだった。

ちなみに、特集テーマは父子の断絶問題を取り上げた「オーマイパパに背くもの」。老舗文芸出版社のお家芸らしく、谷崎潤一郎や五味康祐、大佛次郎など人気作家の連載小説も充実していた。

新潮社が創刊のために用意した資金は三〇〇〇万円と言われ、スタッフは佐藤亮一編集長（三二）以下、カメラマン五人を含む編集者など一三人。後に作家となる江國滋（二一）も在籍していた。

四〇万部刷った創刊号は、「予想以上の好成績」（第二号の編集後記）で、出版元の発表によれば、同年一一月一二日号で五二万部、五年後の三六年には一〇〇万部の売れ行きを記録することになる。

当時週刊誌は、大正一一年創刊の「週刊朝日」と「サンデー毎日」を含む五誌で、いずれも記者と全国の支社・支局を抱える新聞社が発行していた。つまり、取材網のない出版社が週刊誌を発行すること自体、前例がなかったわけである。

「人海戦術で同じテーマを数人で取材し、それぞれが持ち帰ったデータをもとに外部のベテランライターが原稿にする。今では当たり前になっているこのデータマン・アンカーのシステムが『週刊新潮』から生まれたのも、取材経験のある社員がいないための苦肉の策でした」

こう振り返るのは、二一年間にわたって「週刊新潮」の編集者をつとめた亀井淳氏である。

ラジオ番組の手法を記事作りに取り入れたのも、ユニークな試みだった。

「街角で録音した庶民の肉声を番組でそのまま使う録音構成を、雑誌に取り入れたんです。これが、結果的に生のコメントを多用して事実に迫りながら、『しかし、今となっては真実は藪の中である』で終わる新潮独自の〝藪の中方式〟の文体を生んだのです」（亀井氏）

タテマエの新聞社系を凌駕した〝すき間産業〟

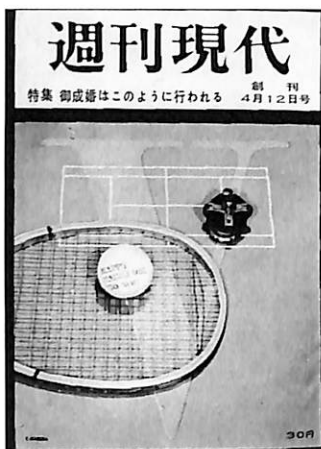
型破りな「週刊新潮」の成功によって、三三年の「女性自身」「週刊明星」、三四年の「週刊現代」「週刊文春」と、〝雨後の筍〟のような出版社系週刊誌の創刊ラッシュが起きた。たとえば、ブームに入った三四年の週刊誌の総発行部数は、それまでの八〇〇万部から一挙に一二〇〇万部に達し、国鉄の輸送計画が立たず、客車で特別輸送されることもあった。

このフィーバーを支えたのが、都市圏の拡大で急増したサラリーマン層である。週刊誌は、通勤時間や待ち時間などの〝すき間〟を埋めるのに絶好のものだった。

一方で、出版社系週刊誌の席巻ぶりに危機感を募らせたのが新聞社である。自社の週刊誌だけでなく新聞の立ち売りまでも侵食し始めたことに、新聞社で組織する東京地区即売常任委員会が「即売スタンドは五割以上は新聞のために利用するべし」などと記した要望書を、即売スタンド業者に突きつける騒動まで起きた。

こうして出版社系週刊誌が新聞社系を凌駕した理由について、メディア問題に詳しいジャーナリストの小板橋二郎氏は、次のように分析する。

「新聞社系週刊誌が書けないことを、出版社系が記事にしたのが最大の理由です。典型が、宮内庁記者クラブの報道協定に縛られて新聞社系が書けなかった皇太子（現・天皇）と正田美智子（現・皇后）の婚約を、『週刊明星』が三三年にスッパぬいた一件ですよ。これを機に、出版社系週刊誌は報道協定からこぼれた事件や話題を記事にする〝すき間産業〟として認知されたと言っていいでしょう」

と同時に、新聞という主流から派生しタテマエを逸脱しない新聞社系週刊誌とは対照的に、人間臭く迫ったことも出版社系がうけた理由だった。裏窓的なニュース、芸能ゴシップ——値段から「三〇円文化」と言われた出版社系週刊誌は、庶民の好奇心を満たす大衆的ジャーナリズムの代表選手だったのである。

「その担い手になるのが、六〇年安保などの学生運動に身を投じ、大会社に就職しそこなった有能な大学生たちです。彼らの多くが週刊誌の世界に入り、そこからフリージャーナリストや作家、評論家へと飛躍していきました」（小板橋氏）

実際、「週刊新潮」を支えた草柳大蔵や井上光晴をはじめ、「週刊明星」でトップ屋をつとめた梶山季之、「週刊スリラー」のアンカーだった清水一行、「週刊文春」「ヤングレディ」の立花隆など多くの著名人が、出版社系週刊誌から生まれていった。週刊誌はマスコミへのユニークな人材供給源でもあったのである。

▲「週刊文春」（文藝春秋）。34年。

▲「女性自身」（光文社）。33年。

▲「週刊女性」（河出書房）。32年。

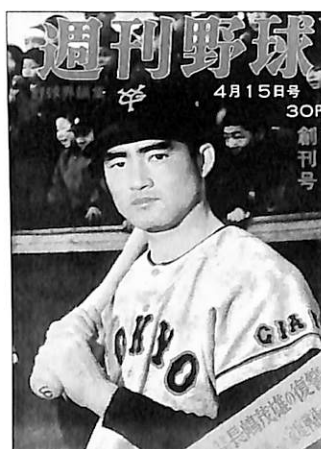
▲「週刊スリラー」（森脇文庫）。34年。

▲「週刊現代」（講談社）。34年。

▲「週刊大衆」（双葉社）。33年。

▲「週刊平凡」（平凡出版）。34年。

▲「週刊野球」（博友社）。34年。

▲「週刊明星」（集英社）。33年。

▲「週刊コウロン」（中央公論社）。34年。

▲「週刊実話特報」（双葉社）。34年。

大宅壮一文庫提供（二点とも）

フォト＋日録で再現する366日

◀**御池通り初巡行（7月17日）**祇園祭のクライマックス・山鉾巡行が、四条烏丸から東行して寺町で北進し、御池通りに入る新コースに変わった。四条寺町で初めて鉾の左旋回が行われた。

朝日新聞社

毎日新聞社

▼**初のドミニカ移民団出発（7月2日）**北海道、福島などの28家族185人が、南米移民船「ぶらじる丸」で横浜を出発。ハイチ国境のダハボンに入植。昭和45年までに1328人が農業移民した。

共同通信社

▲**自民党の長老、三木武吉死去（7月4日）**肝硬変のため71歳で死去。政界の大ダヌキと呼ばれ、吉田降ろしを画策し、前年の自民党結成に奔走、鳩山（中央）政権を実現させた。

▼**空前の富士登山ブーム（7月29日）**マナスル登頂成功も影響を与えたのか、7月1日の山開きから1ヵ月ほどで富士山の登山者は10万人を突破。好天のこの週末、約2万人が頂上をめざした。

読売新聞社

▶**沖縄の「島ぐるみ闘争」（7月28日）**琉球米民政府が発表した沖縄の軍用地使用を永久化する"プライス勧告"に住民が反発。この日、那覇高校に15万人が集まり、地代一括払い反対、新規接収反対など、「土地を守る四原則」の貫徹を確認した。

沖縄タイムス

PPS

◀**世界一のタンカー進水（8月8日）**広島県呉市の米ＮＢＣ造船所は、旧海軍工廠のドックで8万4700トン、戦艦「大和」クラスのタンカーの進水式を挙行。延べ35万人の日本人作業員が6ヵ月の短期間で建造した。

昭和31年7月

1（日）●気象庁、中央気象台から改称して新発足。
●名古屋の三百貨店が家電を二割引きで販売。

2（月）●国防会議（議長は総理大臣）、発足。

3（火）●宇都宮市で息子の殺人容疑で家宅捜索受けた母親がショック死。同日、息子の無実判明。
●鉱工業生産指数が過去最高を更新（神武景気）。

4（水）●警視庁、創価学会の交番折伏への警戒を通達。

5（木）●テトラパック牛乳に大量の予約注文と新聞に。

6（金）●隅田川汚染のため、三六〇年続いた東京・佃島の住吉神社の神輿水中渡御が中止となる。

7（土）●敗戦時のハルビンでの死者七四〇五人を公表。

8（日）●国際ペンクラブ、翌年度大会の日本開催決定。

9（月）●元・大川周明宅で旧日本軍の短銃四七丁発見。

10（火）●清瀬一郎文相、男女共学の廃止を考慮と言明。

11（水）●起債懇談会、起債制度の自由化方針を発表。

12（木）●厚生省、大腸菌汚染の海水浴場二七八ヵ所の遊泳禁止を各都道府県に指示。

13（金）●中国、初の国産車「解放」の試作車を発表。

14（土）●東京地裁、清水幾太郎らの北京渡航申請を拒否した外務省に損害賠償を命ずる。

15（日）●共産党、三四周年で初の記念パーティを開催。
●富士山麓三ツ峠の展望台崩落。二一人重軽傷。

16（月）●北陸・東北に豪雨被害。二万人余が被災。

17（火）●経済企画庁、『経済白書』を発表し、「もはや戦後ではない」と強調。

18（水）●前橋市の私立高、映画「狂った果実」を無許可で観た女生徒二人に退学を勧告。

19（木）●東京・池袋で恐喝・強盗の不良八一人補導。

20（金）●西独で徴兵法成立。一〇万人の国軍創設へ。

21（土）●比政府、国交回復後に遺骨収集を許可と発表。

22（日）●大田区で蠅取りコンクール。七二団体が参加。

23（月）●東京・浅草署、初の「ポン引き」一斉取締り。
●日本・フィリピン、正式に国交回復。

24（火）●沖縄から本土への戦後初の修学旅行、那覇商業高校の八五人が東京・晴海埠頭に到着。

25（水）●全国相互銀行協会、第一相銀の再建案を発表。

26（木）●ナセル大統領、スエズ運河の国有化を宣言。

27（金）●全駐労・日駐労、米軍の勤務制裁規定に反対し一四時間スト。

28（土）●松川事件対策委員会と総評、現地調査を開始。

29（日）●映画「真昼の暗黒」、チェコの国際映画祭で「世界の進歩に最も貢献した賞」を受賞。

30（月）●日産、初の社内一斉夏期休暇（～8月4日）。

31（火）●閣議、海外投資委員会の設置を決定。

証言・あの日この日

山川　均（75）

5月1日（火）〈幸に好天気、一昨年にくらべ参加者ははるかに多かった。プラカードが減って赤旗がふえた。社会党が飛行機からビラをまいていたほかは、2、3年前には会場を埋めるほどばらまかれた共産党系のビラが一枚もまかれなかった。毛沢東、金日成、スターリン、徳球の肖像のプラカードも今年は全く姿を消した〉（『山川均全集』第19巻）

この前年10月に山川の関係する日本社会党は左右両派が合同し、11月には保守合同によって自由民主党が結成、いわゆる「55年体制」が始まり、この年2月にはソビエトでスターリン批判が行われる。メーデーもこの頃から少しずつ変質する。〈今年のメーデーの特徴としてなごやかな祭典気分、家族づれの参加者など強調して報道されたが、それほど顕著ではない、そういう傾向は2、3年前からのものである〉。（坪内祐三）

毎日新聞社

▲**カバの赤ちゃん誕生（8月10日）**上野動物園のデカオとザブコの3番目の子どもで、体重は約30キロ。マルコと名づけられた。以後デカオは、死ぬまでに16頭の子を残す。

▶**原子力発電開発スタート（8月10日）**茨城県東海村で原子力研究所起工式が行われ、科学技術庁初代長官・正力松太郎らが出席。翌年8月27日、日本初の原子の火がともった。

共同通信社

朝日新聞社

▲**12年ぶり親子対面（8月29日）**「朝日新聞」が2月から進めていた親探し運動が実ったもの。太平洋戦争のため中国で生き別れ、別々に帰国していた母娘が、北九州の米軍芦屋基地で再会した。

▶**大館市の中心部、灰燼に帰す（8月18日）**秋田県東大館駅前の旅館から出火。台風9号の余波の強風により、市の4分の1にあたる1321戸が焼失した。同市では戦後3度目、前年5月に続く大火となった。

読売新聞社

▼**台風9号、「軍艦島」に来襲（8月17日）**九州・中国地方で死者・行方不明者38人の被害が出た。長崎半島西方海上に位置する海底炭田の基地、通称「軍艦島」では、選炭施設や作業員の住居などが倒壊した。

朝日新聞社

昭和31年8月

1（水）●主婦連、配給米の量目不正調査を開始。計量器を持って都内の米穀店を巡回。

2（木）●ボリビアとの移住協定調印。

3（金）●ボーイスカウトの日本ジャンボリー開幕。
●東京北区で蚊と蠅撲滅にＤＤＴを空中散布。

4（土）●インドが自力建設の原子炉、アジアで初操業。

5（日）●五味川純平『人間の条件』（第一部）刊行。

6（月）●沖縄代表団、各政党に、耕作地をガソリンで焼き払い強制接収など、土地収用の実情訴え。

7（火）●東京都、急増する深夜喫茶取締り条例を公布。

8（水）●呉市の米ＮＢＣ造船所で世界最大のタンカー「ユニバース・リーダー号」進水。
●米軍、沖縄中南部に米人立入禁止区域を指定。

9（木）●フィラリア症続出の八丈島にＤＤＴ散布。

10（金）●日本原水爆被害者団体協議会（被団協）、結成。

11（土）●マスコミ倫理懇、「太陽族映画」の規制を映画界に要望（17日、日活が製作中止を言明）。

12（日）●ディズニー映画「わんわん物語」に一万五四一一人入場。戦後最高の一日入場者を記録。

13（月）●画家・荻須高徳に仏レジオン・ドヌール勲章。

14（火）●都市交通審、京浜線と山手線の分離や中央線の複々線化など東京の輸送増強計画を答申。

15（水）●アウシュビッツの記録『夜と霧』、刊行。

16（木）●長崎・佐賀両県で人工雨を降らせるため自衛隊機にたのみドライアイスを空からまく。

17（金）●台風九号による高潮で有明海の干拓地が全滅。

18（土）●大館市で大火。一三二一戸を焼失。

19（日）●警視庁、五日以来「愚連隊」一九六九人を逮捕。

20（月）●人違い殺人事件の被告、控訴審公判で証人の愛人を竹べらで刺す（一審無期が高裁で死刑）。

21（火）●家電小売組合の臨時大会で正価販売を決議。

22（水）●女人禁制の奈良県大峰山で、女性含む登山者一行が地元住民に妨害され入山を断念。

23（木）●沖縄問題解決国民運動連絡会議、結成。

24（金）●火災防止に国鉄初の全金属製電車が試運転。

25（土）●米の大農場で日本人移民、待遇改善運動開始。

26（日）●宮城県警、殺人事件情報提供に懸賞金三万円。

27（月）●長崎県瀬川村で直径五〇㍍の竜巻。五戸全壊。

28（火）●日銀総裁、一万円札発行は慎重にと発言。

29（水）●東京行きカナダ太平洋航空機がアラスカで墜落。初の女性外交官・山根敏子ら一五人死亡。

30（木）●杉並区議会、退職金の厳禁定めた改正地方自治法施行前に任期中の区長への支給を決定。

31（金）●都立大、昼夜開講は違法との文部省勧告拒否。

毎日新聞社

▲裁判のスピードアップ実現(9月28日)農林省事務官(右)の7800万円公金横領事件は、年内16回の審理が予定され、東京地裁で1回目の公判が行われた。

毎日新聞社

▼魚津市大火(9月10日)富山県魚津市真成寺町から出火、台風後のフェーン現象で1677戸が焼失、死傷者175人の被害が出た。この年6件目の大火で、全国的に小都市の消防力の弱さが指摘された。

▼火星、32年ぶり地球に大接近(9月7日)東京・上野の科学博物館屋上と庭には20センチ屈折望遠鏡、50ミリ天体望遠鏡22台が用意され、約800人の天文マニアが集まり、5600万キロに迫った火星の素顔を観測した。

▲「マンボ王」ペレス・プラド初来日(9月8日)楽団・歌手を率いたペレス・プラドが、東京・浅草国際劇場で公演を行った。キューバのルンバにジャズの要素を加えた刺激的なリズムと「ウー」のかけ声が、日本でも人気だった。

朝日新聞社

▼関西本線で列車脱線転落(9月27日)三重県鈴鹿郡の関―加太駅間で、台風15号による土砂崩れのため、7両編成の通勤列車が脱線。客車1両が15メートル下の加太川に転落し、18人が激流にのまれて溺死した。

毎日新聞社

▲カッパー・ロケット1号発射成功(9月24日)秋田県道川海岸での東大生産技術研究所・糸川英夫教授による実験で、6000メートル上空をマッハ3で70秒飛行。ロケットによる地球観測の準備は一応整った。

共同通信社

朝日新聞社

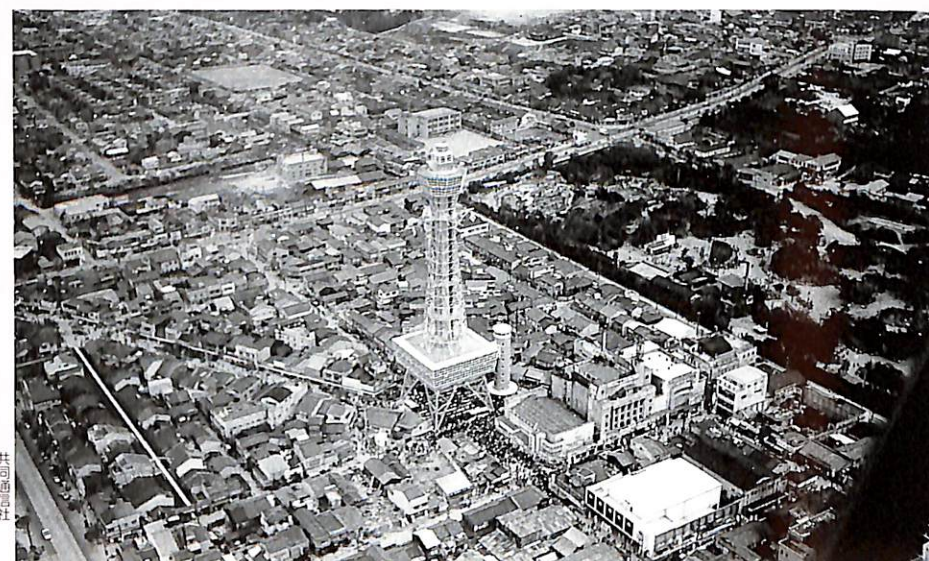
昭和31年 9月

1(土)●神戸大、気球による宇宙線の観測実験に成功。
2(日)●苫小牧市上空で米軍機二機が空中衝突。
3(月)●米の豊作でパン屋の一割が休廃業と新聞に。
4(火)●都立駒込病院で看護婦の大半を赤痢で隔離。
5(水)●広島市、被爆女子治療に米人医師招聘と発表。
6(木)●東京で第五回国際遺伝学会議開幕。
7(金)●火星が三二年ぶりに地球に大接近する。
●東富士演習場で草刈りの農婦を米兵が狙撃。
8(土)●マンボのペレス・プラド楽団が初来日。
9(日)●武生市でバスが七〇㍍転落。四二人死傷。
10(月)●魚津市で大火。一六七七戸を焼失。
11(火)●広島原爆病院、開院。
●山中湖のマリモが新種と判明(フジマリモ)。
12(水)●京都・兵庫など一三府県が財政再建団体に。
13(木)●日高六郎と長洲一二、教科書会社の右翼学者との共同執筆依頼に抗議し執筆拒否を声明。
14(金)●外山雄三・岩城宏之、N響で指揮者デビュー。
15(土)●タクシー強盗多発に、東京の会社が運転手訓練のため柔道場を建設、と新聞に。
16(日)●自衛隊の医官の充足率はわずか三割と新聞に。
17(月)●東京高裁、東大病院の輸血で梅毒に感染した女性に対し国の責任を認める。
18(火)●日本海側一帯でソ連核実験による放射能検出。
19(水)●国鉄の宮地惟友、史上三人目の完全試合達成。
●八海事件で服役中の吉岡被告、映画「真昼の暗黒」の今井正監督を名誉毀損で告訴。
20(木)●明治神宮外苑競技場の国有化が決定する。
●神奈川県議会社労委、動物を見せものにする闘犬などを禁止する条例案を承認。
21(金)●高松市、学童用の結核療養所建設と決定。
22(土)●トヨタ、大衆車の試作第一号を発表。
23(日)●日本フィルハーモニー交響楽団、初演奏会。
24(月)●糸川英夫、カッパー・ロケット第一号を発射。
25(火)●富山県知事選で社共推薦の吉田実が当選。
●荒尾市の荒尾高校で運動会後のストーム禁止から生徒が騒ぎ校長を監禁、警官出動を要請。
26(水)●北海道警、人身売買容疑で四三ヵ所を捜索し二八人を逮捕。
27(木)●関東に台風一五号。一一四二戸全半壊。
●劇団民芸、「アンネの日記」を初演。
28(金)●文部省、小・中・高校で初の全国学力調査実施。
29(土)●戦後の男性の髪型は、リーゼントからGI刈りとなり、現在は慎太郎刈り流行、と新聞に。
30(日)●下館市で菊池豊市長へのリコール投票(成立)。

共同通信社

朝日新聞社

▲三段跳びで世界新記録(10月7日)仙台市宮城陸上競技場で行われた日本陸上選手権大会最終日、小掛照二は2回目の跳躍で16メートル48を跳び、ソ連・シチェルバコフの記録を2センチ更新した。

▲英の原子力発電スタート(10月17日)イングランド西北部のコールダーホール原子力発電所が運転開始。出力約9万キロワットで、実用規模では世界初。

▲ハンガリー事件勃発(10月23日)駐留ソ連軍即時撤退、自由選挙を求めるブダペストでのデモが、反ソ暴動へと発展。国内は内乱状態となったが、11月4日ソ連軍がブダペストを制圧した。

朝日新聞社

◀西鉄、日本シリーズ初制覇(10月17日)東京・後楽園の第6戦で巨人を下し、4勝2敗で初優勝。新人投手・稲尾和久(左から二人目)も大活躍。

▶大阪名物・通天閣再建(10月28日)新世界の鉄塔下広場で開通式が行われた。昭和18年、鉄の供出で解体されて以来のこと。高さは103メートル。

▶日ソ共同宣言(10月19日)領土問題をのぞき、抑留者の即時返還など5項目で合意し、昭和20年の日ソ中立条約破棄以来、11年ぶりに国交を回復した。写真は調印する鳩山・ブルガーニン両首相。

共同通信社

昭和31年 10月

1(月)●開都五百年記念大東京祭、開幕。
2(火)●関東逓信病院でショックなしとされた経口ペニシリンVにショック第一例が発生。
3(水)●全国高校長協会、東大の新選抜方式(数学重視など)は受験競争を激化させると善処要望。
4(木)●都銀一二行の貸出増加額が戦後最高と判明。
5(金)●中央選管、○×式投票制度の採用を決議。
6(土)●北京で日本商品見本市開幕。粗悪品が続出。
7(日)●小掛照二、三段跳びで一六㍍四八㌢の世界新。
8(月)●北海道で冷害により欠食児童が増加と新聞に。
9(火)●新潟家裁、共学に反対し娘三人を小・中学校にかよわせない父親に罰金一〇〇〇円の判決。
10(水)●検定強化のため文部省に教科書調査官設置。
11(木)●日本建築家協会、結成。
●延暦寺で放火火災。大講堂(重文)など焼失。
12(金)●立川基地拡張の測量強行。反対派と警官隊衝突(~13日一一五一人負傷。第二次砂川事件)。
13(土)●兵器工業会、防衛庁に銃弾メーカー救済要望。
14(日)●第一回産業音楽祭。五三団体二〇〇〇人参加。
15(月)●参宮線で列車転覆。修学旅行生ら四〇人死亡。
●天竜川佐久間発電所の完工式挙行。
16(火)●文部省、戦後初の校長研究協議会を開催。校長の日教組加入反対を表明。
17(水)●西鉄、日本選手権で巨人を破り初優勝。
●犬山市に(財)日本モンキーセンター設立。
●英コールダーホール原子力発電所、運転開始。
18(木)●ルネ・クレマン監督「居酒屋」封切。
19(金)●日ソ共同宣言に調印、一一年ぶり国交回復。
20(土)●倉敷市で原燃公社が三吉ウラン鉱開発始業式。
21(日)●稚内市で南極観測同行の樺太犬の壮行会開催。
22(月)●大学乱立を防ぐ大学設置基準令、公布施行。
23(火)●ハンガリーで自由選挙とソ連軍撤退要求し一〇万人がデモ(24日ソ連軍、弾圧に出動)。
●閣議、外国人投資家の日本株取得制限を緩和。
24(水)●釜山収容所脱出の日本人船員二人が帰国。
25(木)●琉球政府の比嘉秀平主席、狭心症のため急死。
26(金)●慶大・青学大の女子自動車部員による東京―静岡間往復、燃料節約競走がスタート。
27(土)●前年の製作本数四二三で世界一と「映画白書」。
28(日)●大阪・新世界に通天閣が再建される。
29(月)●イスラエル軍、エジプトへ侵攻(スエズ戦争。31日英仏軍、侵攻開始)。
30(火)●比ミンドロ島で救出の元日本兵四人マニラへ。
31(水)●石巻港で漁船が突堤に衝突。三七人行方不明。

NHK提供

▲NHKの「お笑い三人組」スタート(11月6日)三遊亭小金馬、江戸家猫八、一龍斎貞鳳らが庶民生活を面白おかしく演じた番組。テレビコメディの人気番組として9年間続いた。

報知新聞社

◀人気歌手、三橋美智也結婚(11月10日)26回目の誕生日のこの日、東京・丸の内会館で、松本喜久子さん(22)と挙式。昭和29年デビューし、この年の「哀愁列車」が大ヒットした。

読売新聞社

▲エチオピア皇帝、カモ猟へ(11月21日)19日国賓として来日したハイレ・セラシエ1世(左)は、埼玉県越谷の御猟場で、皇太子の案内でカモ猟を楽しみ、自身も2羽を捕獲した。

朝日新聞社

▲国鉄、大規模なダイヤ改正(11月19日)東海道本線・京都—米原間の電化作業(写真)と、東京の国電・田端—田町間の複々線工事が徹夜で行われ、輸送力が大幅に増強した。

朝日新聞社

▶出版界の付録合戦(11月19日)「おもしろブック」「少女」などの子ども向け雑誌の新年号は、いずれも8~9大付録つき。ゲーム、ブロマイドのほかに、「鉄腕アトム」など4~5冊の付録漫画も人気があった。

◀「二十四の瞳」記念像、除幕式(11月10日)昭和29年度映画コンクールでの日本映画賞受賞を記念して、ゆかりの地、香川県小豆島土庄町の港の広場に「平和の群像」が建立された。右から主演の高峰秀子、原作者の壺井栄、監督の木下恵介。

共同通信社

昭和31年11月

1(木)●ハンガリー、ワルシャワ条約機構脱退を宣言(14日ソ連が全土を制圧、22日ナジ首相逮捕)。
●愛媛県教委、教員の勤務評定実施と決定。
●古川ロッパらの松竹浅草ミュージカルが発足。
2(金)●米原子力委、丸紅への実験用原子炉輸出許可。
3(土)●日本飛行連盟の航空少年団、結成式。
4(日)●NHKテレビの定時放送が一日六時間に延長。
●熊本大研究班、水俣病は「ある種の重金属」による中毒と発表。
5(月)●米軍所沢兵器所、日本人三八〇人全員を解雇。
6(火)●NHK、「お笑い三人組」放映開始。
7(水)●国際電電、犬吠埼—生駒山間四八三㌔の極超短波の無中継通信に成功。
8(木)●南極予備観測隊の観測船「宗谷」、東京出港。
9(金)●東京地検、参院の乱闘で社会党四議員を起訴。
10(土)●三島由紀夫『潮騒』などが米で好評と外電。
11(日)●雪舟没後四五〇年でソ連が記念切手と新聞に。
12(月)●日ソ共同宣言の国会批准反対を叫ぶ右翼デモ隊、ソ連漁業代表部へ乱入。
●TV劇映画「名犬リンチンチン」放映開始。
13(火)●立教学院、全国初の総合運動場の完工式挙行。
14(水)●「週刊漫画TIMES」、創刊。
●時計密輸激増で、全国一三八時計商を捜索。
15(木)●寿屋が萩原朔太郎の詩を無断使用したとして遺族が提訴(寿屋が全面謝罪)。
16(金)●大阪の梅田コマ開場(12月8日新宿コマも)。
17(土)●東大駒場祭で吉田茂が約二〇〇〇人前に講演。
18(日)●畜犬税の導入が広まり捨て犬が増加と新聞に。
19(月)●東海道本線全線電化が完成。
●エチオピアのハイレ・セラシエ皇帝、来日。
20(火)●相撲協会、九州場所の本場所昇格を決定。
21(水)●経済同友会、「経営者の社会的責任」を決議。
22(木)●第一六回メルボルン五輪開幕。
●呉基地で一一年駐留の英連邦軍、撤退式挙行。
23(金)●ワシントンで日米ウラン貸与協定調印。
24(土)●猥褻本と猥褻写真の元締め兄弟ら五人を検挙(写真三万枚販売)。
25(日)●浜松市で巡査が電話線窃盗の少年を射殺。
26(月)●国際水泳連盟、平泳ぎ潜水泳法の禁止を決定。
27(火)●衆院で日ソ共同宣言批准。自民吉田派は欠席。
28(水)●横山大観らの二六作品詐取の自称画商を逮捕。
29(木)●闇米が自由米の名で第二市場形成と新聞に。
30(金)●ボーナスが「戦後最良」、前年の三~五割増と新聞に。

共同通信社

▲自衛隊の国産戦車第1号(12月11日)下丸子の三菱重工東京製作所が作ったもの。米軍供与戦車よりも大型で90ミリ砲1門、機銃2門を備えている。

沖縄タイムス

▶革新市長誕生(12月25日)この日投票の那覇市長選挙で、琉球米民政府が反米的と警戒する人民党の瀬長亀次郎が当選した。写真は28日、演説する瀬長。

朝日新聞社

▶石橋・岸、一騎打ちの総裁選(12月14日)石橋湛山(左)が決選投票で岸信介を7票差で破り、自民党第2代総裁に就任。23日、新内閣が誕生した。

読売新聞社

▲日本、金メダル4の快挙(12月1日)オーストラリアの第16回メルボルン五輪。レスリングでは池田に続き、笹原(写真)が、そして男子体操の小野、水泳の古川が金メダル。

▶日本、国連に加盟(12月18日)51ヵ国共同提案の日本加盟案は77ヵ国全会一致で可決され、80番目の加盟国として国際社会に復帰した。写真は祝賀会で挨拶する鳩山首相。

◀ソ連から第11次引揚げ船(12月23日)日ソ国交回復で帰国者1025人を乗せた「興安丸」がナホトカを出港、26日舞鶴港に入港した。しかし大陸には約6万人の消息不明者が残った。

共同通信社

昭和31年12月

1(土)●大阪テレビと中部日本放送テレビ、開局。
●第一回映画の日。業界から独立した映倫発足。
●小学館、「よいこ」を創刊。
2(日)●カストロら、キューバに上陸しゲリラ戦開始。
●ラジオ東京で東芝「日曜劇場」放映開始。
3(月)●隅田川の汚泥が最大二㍍以上堆積と判明。
4(火)●マッカーサーの甥が新駐日大使に任命される。
5(水)●警察庁で冷害地帯の娘の身売り激増と報告。
●日赤、国際動乱犠牲者救済デーの募金開始。
6(木)●五輪二〇〇㍍平泳ぎで古川勝・吉村昌弘が金銀(7日山中毅、自由形で二つ目の銀)。
7(金)●農民組合七団体、農民戦線統一協議会結成。
8(土)●政府、第一回国防会議を開催。
9(日)●小松製作所が初の雪上消防車を製作と新聞に。
10(月)●原田康子『挽歌』刊行。
11(火)●農林省がコーラ原液輸入認可の方針と新聞に。
12(水)●国連総会、ソ連のハンガリー撤退要求を決議。
13(木)●島根県庁で火災。本庁舎と別館を全焼。
14(金)●自民党総裁に石橋湛山選出(23日内閣成立)。
●日銀券発行限度額が二七㌫増六五〇〇億円に。
15(土)●原子燃料公社副理事長、人形峠のウラン埋蔵量は一〇〇万㌧と推定されると表明。
16(日)●本年の暴力団検挙数は八万人弱と警察庁発表。
17(月)●流感蔓延に都はワクチン五〇万人分を配布。
18(火)●国連総会、日本の加盟を承認。
●東南アジア巡回の機械見本市船「日昌丸」出航。
19(水)●国連加盟で選挙違反者ばかり七万人余に恩赦。
●ラオス、対日賠償請求権の放棄を通告。
20(木)●NHK、カラーテレビ東京実験局を開局。
21(金)●臨時税調、一〇〇〇億円減税など税制答申。
22(土)●英仏連合軍、エジプト撤退完了。
23(日)●第一回中山グランプリ(後の有馬記念)開催。
24(月)●主婦連など、全国消費者団体連絡会を結成。
25(火)●那覇市長選で人民党の瀬長亀次郎が当選。
26(水)●人口自然増が戦後初の一〇〇万割れと厚生省。
●ソ連からの引揚げ船「興安丸」、舞鶴入港。
27(木)●米軍が管理権を握る琉球銀行、人民党市長誕生の那覇市への支払い停止決定。
28(金)●東京地裁、造船疑獄にからむ政治資金規正法違反で起訴の佐藤栄作らに恩赦で免訴判決。
29(土)●社会科教科書執筆者八〇人、修正・不合格など審査結果の文書による通知を文部省に要望。
30(日)●日本広告主協会、設立。
31(月)●大野市で工事用トラックに雪崩。七人死亡。

徴（が）楽（らく）多（た）市（いち）

流行語　不公平な徴税への怒り

「九・六・四」。「くろよん」と読む。サラリーマンは源泉徴収で収入の九割を税務署に押さえられているのに、申告制の医者や商店は六割くらい、農民にいたっては四割にすぎないというサラリーマンの怒りを表したもの。後には九割どころではなく「一〇・五・三」（とうごうさん）だという声も聞かれた。

「ドライ」。割り切った考えやさばさばした性格、あるいは非情な人間を表現する言葉として使われた。この年、社会現象となった「太陽族」はその典型で、その後日本語として定着した。

「マネービル」。利殖や財産作りのことで、銀行や証券会社が、市民に積極的に働きかける合い言葉として用いられた。当時流行していたボディビルをもじったものという。

「あなた買います」。プロ野球のスカウト合戦の内幕を描いた小説のタイトルで、人権を無視したプロの実態が評判になった。ただ会話の中では冴えている人を評価する意味で「あなた買いますよ」などと使われた。

CM100年　新聞CM「クシャミ3回ルル3錠――ルル」（三共）　タレント・河内桃子

▲絶妙な語呂合わせのキャッチフレーズが親しみやすく、ルルは風邪薬のトップブランドになる。

共同通信社

▲新結成の日本シャム猫クラブ主催のコンクールが開かれ、映画監督・山本嘉次郎の愛猫ハンが1等賞。

流行　美容にビール風呂　博多で女性に人気

〔福岡発〕福岡市内のK温泉センターが「ビール風呂」というのを始め、肌が美しく、しかも柔らかくなるというので、ご婦人方（がた）の人気を集めている。タネをあかせばビールの炭酸ガスを抜いたものをぬる目に沸（わ）かしたものだが、原料の麦のエキスが体にいいというわけ。ちなみに洗い場の蛇口をひねると本物のビールが出てくる仕組みになっており、一杯一三〇円。こちらはビール党の男性に大好評という。

（「夕刊フクニチ」四月三〇日）

▲岡部冬彦「ベビーギャング」が「漫画読本」1月号から連載開始。銃を持った子どもがおとなを脅してイタズラをする漫画。おとなから子どもまで楽しめた。

教育　初の海外日本人学校　バンコクに開校

一月二二日、タイのバンコクに初の日本人学校が開校した。生徒は幼稚園児一四人、小学生一三人、中学生一人の二八人で、職員は四人。当時、タイには数百万人の華僑（かきょう）がいて、華僑学校も四〇〇を超えた。華僑に経済を支配されることをおそれたタイ政府は、華僑学校の閉鎖を命じ、華僑子弟のタイ人化政策を強く推し進めることになった。そのあおりで日本人の子どもたちも、タイ人化教育を受けなければならなくなり、急遽開校することになったもの。その後、学校は発展を続け、昭和六〇年には生徒数一〇五〇人、教職員九〇人に膨（ふく）れ上がった。

（泰日（たいにち）協会編『泰日協会学校三〇年史』）

アルバイト　虫歯治療もある最新アルバイト事情

学生アルバイターが昭和三〇年一年間に稼（かせ）いだ金は四億三五〇〇万円、三一年は優に五億円を超えると予想されている。最近のバイトの中で人気の高いのが美容師試験の試験台。慎太郎刈り、ヘプバーンスタイルのモデルというわけで日当一〇〇〇円。歯科医師試験の試験台もある。虫歯治療の実技だから、虫歯のあることが条件。ギターやアコーディオンがひければ、会社の慰安会ののど自慢の伴奏係が引く手あまた。温泉旅行つきで一〇〇〇円。しかも重役などのチップがバカにならないという。

（「知性」八月号）

三越提供

▶ケミカル・シューズ中心の春の新作靴発表会が東京・日本橋の三越で開かれた。

三面記事　伊東市の変な「恋愛憲章」

〔静岡発〕静岡県伊東市の青年団幹部が、七月二三、二四日の二日間にわたって青少年の不良化防止について協議し、防止策のひとつとして「恋愛憲章」なるものを作った。この憲章は全部で五条からなっており、

「第一条　恋愛はかりそめに行ってはならない。

第二条　一年以上の交際なくして恋愛に入ってはならない。

第三条　恋愛の期間中は接吻（せっぷん）以上の肉体関係を行ってはならない。

第四条　恋愛は秘密に行ってはならない。

第五条　恋愛はラブレターの交換を行うべし」

という内容。ただし市民の間からは「ちょっと時代錯誤では」という声も聞かれた。

（「静岡新聞」七月二五日）

共同通信社

▶昭和二七年に初のボウリング場ができ、徐々に浸透していた。手動式で裏方のアルバイトが必要だった。

はやり歌

この世の花

作詞　西条八十
作曲　万城目正

赤く咲く花　青い花
この世に咲く花　数々あれど
涙にぬれて　蕾（つぼみ）のままに
散るは乙女の　初恋の花

想うひとには嫁（とつ）がれず
想わぬ人の　言うまま気まま
悲しさこらえ　笑顔を見せて
散るもいじらし　初恋の花

君のみ胸に　黒髪を
うずめたたのしい　想い出月夜
よろこび去りて　涙はのこる
夢は返らぬ　初恋の花

トラストミュージック提供

▶前年に発表されヒット。この年に入ってもますます売れた島倉千代子のデビュー曲。松竹の同名映画の主題歌。

ここに幸あり

作詞　高橋掬太郎
作曲　飯田三郎

嵐も吹けば　雨も降る
女の道よ　なぜ険（けわ）し
君を頼りに　私は生きる
ここに幸（さち）あり　青い空

誰にも言えぬ　爪のあと
心にうけた　恋の鳥
ないてのがれて　さまよいゆけば
夜の巷（ちまた）の　風かなし

命のかぎり　呼びかける
谺（こだま）の果てに　待つは誰
君によりそい　明るく仰ぐ
ここに幸あり　白い雲

キングレコード提供

▲富田常雄の新聞小説が原作の、同名映画の主題歌。この年NHK紅白歌合戦に初出場する大津美子が歌い大ヒット。

社会　金へんブームで避雷針泥棒も……

〔新潟発〕金属の値段が高騰（こうとう）して、一番安い屑（くず）鉄でも三・七五キロ当たり六〇～七〇円には売れるというので、小遣い稼ぎの盗みがひんぴんと起きている。今年に入って届けられた被害は新潟西署が二四件、東署が四一件の計六五件。ねらわれるのは高圧線、電話線、工具、水道の鉄管、線路の継ぎ板など、金へんのつくものなら手当たり次第。民家に忍びこんで台所の洗面器、風呂釜、車の車輪を盗んでいった奴もいる。変わったところでは不動産会社の避雷針（七〇メートル）や、同じくネオン塔の避雷針（二五メートル）を引っぱりおろしたり、旅館の屋根に上って雨樋（あまどい）をそっくりはずしていったケースもあった。

（「新潟日報」三月二八日）

◀寿屋（現・サントリー）のPR誌「洋酒天国」が四月に創刊。編集兼発行人は同社宣伝部の開高健。

性　鴎外ゆかりのアパートが初の鉄筋ラブホテルに

東京・湯島にこの年、「旅荘かりがね荘」という鉄筋五階建てのホテルができた。ここには以前「しのばず荘」というアパートがあり、森鴎外（おうがい）の「雁」の主人公・お玉のモデルと言われる女性が住んでいた。鴎外がその女性に会いに来ていたという言い伝えのあることから、こう名づけられた。「かりがね荘」を管理していた不動産会社によると、ここがラブホテルの第一号だという。それまで「連れこみ」とか「サカサクラゲ」と言われる宿はあったが、近代的なホテル形式のものは初めてだったからだ。当時は有名な芸能人や国会議員がよく利用し、それを見たほかの業者も次々にホテルに転身したという。

（「朝日新聞」昭和六三年四月一二日）

この年の初もの　有線放送が札幌でスタート

●**ナマケグマ**　セイロン（現・スリランカ）から、上野動物園に来園。

●**大相撲の取り口分解写真**　NHKテレビが夏場所からコマ撮り録画による分解写真を放映。

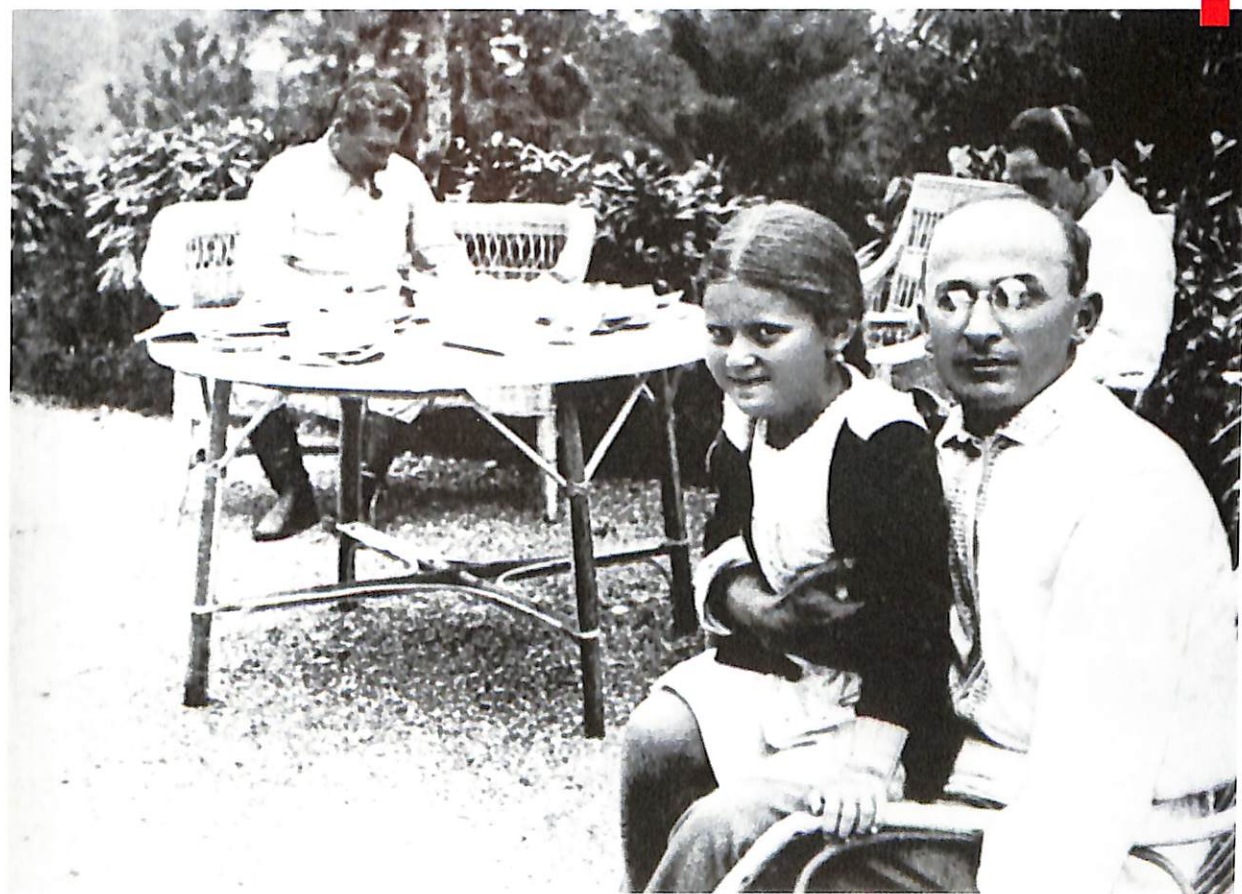
●**団地の洋式トイレ**　大阪の関目（せきめ）第一団地で採用。ただし「お尻が冷たい」と不評だった。

●**火星の地主**　日本宇宙旅行協会が火星の土地を五〇〇万坪一〇〇円で分譲、写真評論家の伊藤逸平（いとういっぺい）が地主の第一号に。

▲日本航空が羽田空港内に開設した「スチュワーデス訓練学校」を公開。サービス重視をアピールした。

フルシチョフが暴いた“恐怖政治”の実態
秘密報告「スターリン批判」、衝撃の三時間半！

ノーボスチ通信社（2点とも）

▲2月14日、ソ連共産党第20回大会の冒頭、中央委員会の活動報告を行うフルシチョフ。中央ひな壇の右から3人目ミコヤン、左へ順にモロトフ、ヴォロシーロフ、ブルガーニン。また、右の壇の最前列左トリアッティ、2列目中央は朱徳。

◀1936年、田舎の別荘で執務するスターリン。手前は愛娘のスヴェトラーナと、秘密警察長官として粛清を断行したベリヤ。

一九一七年のロシア革命から四〇年。この年、ソ連共産党は、従来の革命路線を大幅に修正、死後三年目のスターリンを“神の座”から引きずりおろし、世界中に大きな衝撃をもたらした。その決定打は、二月に行われたフルシチョフ第一書記による「スターリン批判」だった——。

突然の非公開会議「スターリン批判」へ

一九五六年二月一四日午前一〇時（日本時間午後四時）、フルシチョフ中央委員会第一書記（六一）の司会のもと、ソ連共産党第二〇回大会の幕が切って落とされた。会場となったクレムリン宮殿会議場には約一六〇〇人の代表が出席、外国からの招待客として、トレーズ・フランス共産党書記長、トリアッティ・イタリア共産党書記長らの姿もあった。

大会が始まると、出席者全員が起立し、故スターリン（一九五三年三月五日死去）、ゴットワルト（元チェコ大統領、一九五三年三月一四日死去）、日本共産党の徳田球一（一九五三年一〇月一四日、北京で死去）の冥福を祈り、その後、フルシチョフの報告が行われた。

大会冒頭のフルシチョフ演説は午前一〇時一五分から始まったが、フルシチョフはそこでは、スターリン批判は差し控えた。最初にスターリンを名ざしで攻撃したのは、第一副首相のミコヤン（六〇）であった。大会三日目、ミコヤンは個人崇拝を否定し、ロシア革命の父・レーニンが唱えた集団指導体制へ復帰することを呼びかけたのである。

クライマックスは一一日間の日程を消化し、最終日を迎えた二五日の夜のことである。大会は突然非公開会議に切り替えられ、約三時間半にわたり、フルシチョフは“電撃的”とも言える秘密報告を行い、まずレーニンの遺書を三三年ぶりに党内に公表。レーニンもかねてから危惧していたスターリンの粗暴さと狭量さが、徹底した専横と異常なまでの個人崇拝、神格化を生んだと痛烈に批判した。

そして、フルシチョフは具体的にスターリンの行動を槍玉にあげていった。たとえば、一九三七年には、党中央委員一三九名中の九八人を含む数百名を虐殺、さらには約五〇〇〇人の赤軍将校とともにトハチェフスキー元帥を反逆罪で殺害するなど、身ぶるいする内容が明らかにされた。また、第二次大戦の対ナチス・ドイツ戦でも、軍部の粛清や情勢判断の誤りからはかりしれない犠牲者を出したと激しく糾弾した。

会場は静まり返った。一部の代議員は「なぜスターリンを殺さなかった」と叫んだが、フルシチョフは「ちょっと変な態度でもとろうものなら、翌日には首が飛んでいた」と答えたと言われている。

「粛清」の犠牲者は二二〇〇万人とも

フルシチョフによる「スターリン批判」の真意はどこにあったのか。

「それはスターリン亡き後の党内の権力闘争でした。後継者として有望視されていたスターリン側近で、首相、外相を歴任したモロトフ（六五）を追い落とすためには、フルシチョフはスターリンそのものを批判せざるをえなかった。スターリンの恐怖政治を知る古老の党員たちの

外から見たNIPPON

“対日協力者”胡蘭成が衝いた戦後日本的「民主」の本質

——佐伯　修

「占領者たちは彼らの国でもよく行ないえないようなことを、軍命令によって日本にやらせたのである。こうして土地改革は順調に進行し、農村は自作農の農村となり、都市もまた中小企業の普遍的発達が促進され、独占企業は消失して非常に効果的な実績を収めた。（中略）
日本の労働者保障法もまた世界での最も進歩したものとなり、（中略）大臣大企業経営者といっても、その個人収入は一般人の収入と甚しい差はなくなってしまった。彼らの収入が名目的には大きくても、一定限度をこえる部分は、税金として政府の手に収められてしまう。かくて税金は非常に重くなり、政府機構は厖大となり、（中略）一切はすべて政府の計画の枠内に入れられ、人びとはただ国家のために働くことになった。（中略）個々人の仕事はすべて国家機構の定めてくれた枠にはまってしまった。
しかもそのうえ仕事から離れてできた余裕すら、国家機構がその使い方を定めてくれる。（中略）娯楽と芸術はある。科学知識は非常に進歩した。だがそれらの一切は、強烈な工業的雰囲気のなかにある。日本国民の衣食住は急速に向上しつつある。日本の政治は非常に民主的になった。だがしかし人びとは、人世における自主性を失った。雇傭労働者としての感覚から離脱することができない。これで果してよいのであろうか」（池田篤紀訳）

中国浙江省出身の政論家・胡蘭成（一九〇六～一九八一）は、戦争中、汪兆銘らの親日派「国民政府」で法制局長などのポストにあり、戦後は対日協力者として故国を追われ、日本に亡命して生涯を終えた人物。
右の引用は、この年、亡命先の日本で出版した『中国のこころ』の一節だが、戦後日本の「民主」改革が、実は「民主」とは逆のものを生みつつある皮肉を衝いている。
さて、胡と言えば、上海出身のモダンガール作家・張愛齢の恋人としても知られ、二人をモデルに「滾滾紅塵」という映画も作られている。胡は、デビュー直後の張を「魯迅の後継者」と絶讃、それが、そのまま張へのラブ・メッセージともなった。
そんな胡の、魯や張への理解が妥当なものか否かは別として、胡には、魯迅に象徴される「五・四運動」や「文学革命」の精神に殉じようとする、熱烈な心情があったことが『中国のこころ』にもうかがえる。むしろ、その心情が強すぎたために、彼は蔣介石政権とも共産党とも組めなかったらしい。単純に「対日協力者」と言っても一筋縄ではいかないのだ。

▲古代文化や日本文学にも造詣が深かった。

恐怖心を取り払い、自分の身を守る作戦だったと言えます。しかし結果としては、その後の自由化、ゴルバチョフのペレストロイカの出発点になったのです」
こう語るのは青山学院大学の袴田茂樹教授である。
レーニン亡き後、スターリンがトロツキー（一九二七年除名、四〇年暗殺）やジノビエフ（二七年除名、三六年処刑）、ブハーリン（二九年除名、三八年処刑）といった党内反対派の一掃に成功し、独裁権力を完全に固めたのは、一九二九年。その象徴とも言える農業集団化と工業化の第一次五ヵ年計画が正式に採択されたのは、その年四月のことであった。
それは、資本主義諸国の包囲下でソ連が生き残るための冷酷で壮大な実験であった。農民を集団農場の従順な労働者に仕立て工業化を最優先させるために、農業集団化は異常な速さで進められた。一九二八年には個人農家が二五〇〇万戸で、貧農が三五パーセント、中農六〇パーセント、富農五パーセントだったのが、三五年頃には九〇パーセントが集団化されていった。その過程で、自立的な農民たちは「富農」のレッテルを貼られ、約九〇〇万人が強制収容所や荒野に追われ、その半数が死亡、あるいは処刑され、餓死者は三五〇万人にも達したと言われている。
一方、工業はめざましく発展し、「わが国は鉄鋼業、自動車工業もなかったが、今は全部ある」とのスターリンの言葉に国民は自信をかきたてられた。さらなる発展のために「鉄の団結」が呼号され、国民の支持を背景に“スターリン神話”は徐々に浸透していった。
しかし、スターリンの「鉄の団結」という党規律は粛清と表裏一体をなすもので、その犠牲者は三五〇万人とも一二〇〇万人とも言われている。そして、その実態は国民に知らされなかった。
「スターリン批判」は各国に大きな衝撃を与えることになった。スターリン派に支配されていた東欧諸国では、この年六月にポーランドで政変が起き、ハンガリーでは一〇月の反ソ蜂起鎮圧のためにソ連軍が介入するという事態にまでいたる。
「スターリン批判」はその後、東欧社会に自由化の風を送りこむ出発点でもあったのである。

ヨーシフ・スターリン（1879～1953）
ソ連の政治家。一九二二年共産党書記長となり、以後三〇年余、党内外の実権を掌握。社会主義建設の諸施策を強行する一方、三四年のキーロフ暗殺事件に始まる大粛清により、党幹部多数を処刑。
ウラジーミル・I・レーニン（1870～1924）
ロシアの革命家、共産党創立者。一九一七年、ロシア革命を主導し、史上初の社会主義政権を樹立。
ミハエル・トハチェフスキー（1893～1937）
一九一八年赤軍入隊、軍の近代化を推進。三五年元帥。三七年独軍スパイの嫌疑で銃殺刑に処される。

PPS
▲10月23日、ハンガリー動乱で破壊されたスターリン像。

往きて還らぬ

▲1月11日　石田一松（53）
“ノンキ節の石田一松”と親しまれた演歌師。昭和21年衆院選で当選、以後当選4回。著書『のんき哲学』がある。

▲3月16日　I・ジョリオ・キュリー（58）
仏の物理学者。ラジウム発見者マリー・キュリーの娘。夫とともに人工放射能を発見、1935年ノーベル化学賞受賞。

▲8月24日　溝口健二（58）
映画監督。女性の悲劇を描く名手。昭和二七年「西鶴一代女」でベネチア国際映画祭国際賞受賞。ほかに「雨月物語」など。右は田中絹代。

▶6月8日　マリー・ローランサン（72）
仏の画家。淡い色で女性像や自画像を多く描いた。柩の遺体の胸には、恋人アポリネールの手紙がおかれた。

▲8月25日　A・C・キンゼイ（62）
米の動物学者。インディアナ大学動物学教授。人間の性的行動を研究し、まとめた“キンゼイ報告”で知られる。

▲1月28日　緒方竹虎（67）
政治家。元「朝日新聞」主筆。戦後、吉田内閣の官房長官、副総理をつとめ、吉田退陣後は自由党総裁に就任。

▲4月2日　高村光太郎（73）
詩人。昭和16年詩集『智恵子抄』刊。戦中は戦争詩を書き、戦後その自責の念から岩手県太田村に7年間隠棲した。

▲7月5日　秦豊吉（64）
演出家。東京宝塚劇場・帝国劇場社長をつとめ、国産ミュージカルを育成。戦後初のストリップ「額縁ショー」を企画。

▲11月21日　会津八一（75）
歌人、元早大教授。大正13年処女歌集『南京新唱』刊。書家、美術史家としても知られ、書跡集に『遊神帖』など。

▲3月4日　服部之総（54）
歴史学者。戦後鎌倉大学校を創立し、民権運動など日本近代史研究に尽力。また親鸞を研究、『親鸞ノート』を著す。

▲4月30日　宇垣一成（87）
軍人、政治家。清浦・加藤・若槻内閣の陸相をつとめ、宇垣時代を築く。昭和28年参院選に出馬、全国最高点で当選。

▲8月14日　ベルトルト・ブレヒト（58）
独の劇作家。1928年「三文オペラ」で世界的名声を獲得。「異化効果」と名づけられた手法を創案し、演劇に採用。

毎日新聞社
▲12月19日　池田亀鑑（60）
東大教授。国文学者で、古典研究の第一人者。『源氏物語大成』『研究枕草子』などのほか、少年小説『馬賊の唄』がある。

既刊41冊! 1940・1960・1970年代がそろいました。

週刊 YEAR BOOK 日録20世紀

第42号 12月9日(火)発売　定価560円
毎週火曜日発売　講談社　本体533円

1957［昭和32年］

●特集
「嵐を呼ぶ男」封切日に"嵐"が吹いた
"タフガイ"裕次郎、人気爆発!/南極に「昭和基地」建設、初の越冬に/浪人二八万人を背景に予備校界に新風"講師の代ゼミ"開校!/陸軍も出動したリトルロック高校事件　黒人差別と闘った生徒九人の勇気と喜び

●ニュース・ファイル
フォト+日録で再現する365日…「赤胴鈴之助」放送開始(1月7日)/美空ひばり、塩酸あびる(1月13日)/米兵ジラード、農村女性を射殺(1月30日)/王貞治の早実、春の選抜に優勝(4月7日)/コカ・コーラ、日本での販売開始(5月8日)/諫早豪雨(7月25日)/ソ連、「スプートニク1号」打ち上げ(10月4日)/長嶋、六大学本塁打新記録(11月3日)

●人物クローズアップ
大宅壮一、「一億総白痴化」を造語

●決定的瞬間
毛・フルシチョフ笑顔のかげで確執進行

●美の出会い
入江泰吉『大和路』刊行のきっかけ

●女たちの肖像…愛新覚羅慧生、天城山心中/勝者・敗者…日本勢、カナダ杯制覇/証言・あの日この日…芦田均、亀井勝一郎/20世紀博物館…東映太秦映画村(京都)/「現場」を歩く…「有楽町で逢いましょう」から四〇年/外から見たNIPPON…デュラスとヒロシマの"痛み"

●ベストセラー…深沢七郎『楢山節考』/スターと名場面…フランキー堺の名演「幕末太陽傳」/モノ語り'57…「ウテナ男性クリーム」「ミゼット」

日録20世紀専用バインダー

高級感あふれる特製バインダーを用意しました。「日録20世紀」全100巻を10冊ずつ年代順にバインダーにとじてそろえれば、「20世紀」ビジュアル百科のできあがり。10年ごとに分類するためのシールも添付。取りはずしは簡単で、整理にも便利、じょうぶな仕上がりです。あなたの書斎を飾るホーム・ライブラリーとして、永く保存してお楽しみください。バインダーは1部1300円(税別)。全国の書店でお求めください。

■既刊好評発売中

創刊号1959[昭和34年]　第2号1964[昭和39年]　第3号1945[昭和20年]　第4号1970[昭和45年]　第5号1963[昭和38年]　第6号1958[昭和33年]　第7号1972[昭和47年]　第8号1980[昭和55年]　第9号1976[昭和51年]　第10号1989[平成元年]

第11号1960[昭和35年]　第12号1961[昭和36年]　第13号1962[昭和37年]　第14号1965[昭和40年]　第15号1966[昭和41年]　第16号1967[昭和42年]　第17号1968[昭和43年]　第18号1969[昭和44年]　第19号1941[昭和16年]　第20号1942[昭和17年]

第21号1943[昭和18年]　第22号1944[昭和19年]　第23号1946[昭和21年]　第24号1947[昭和22年]　第25号1948[昭和23年]　第26号1949[昭和24年]　第27号1950[昭和25年]　第28号1923[大正12年]　第29号1971[昭和46年]　第30号1973[昭和48年]

第31号1974[昭和49年]　第32号1975[昭和50年]　第33号1977[昭和52年]　第34号1978[昭和53年]　第35号1979[昭和54年]　第36号1951[昭和26年]　第37号1952[昭和27年]　第38号1953[昭和28年]　第39号1954[昭和29年]　第40号1955[昭和30年]

■今後の刊行予定

第43号1931[昭和6年]　第44号1932[昭和7年]

▶第45号1933[昭和8年]平成10年1月6日発売
皇太子明仁親王誕生●三陸大津波の恐怖●特高、小林多喜二を虐殺●日本、ついに国際連盟脱退へ
▶第46号1934[昭和9年]1月13日発売
室戸台風の猛威●贋作浮世絵「春峯庵」事件●「大日本東京野球倶楽部」設立●中国紅軍、長征開始
▶第47号1935[昭和10年]1月20日発売
大本教に大弾圧●作られた美談「忠犬ハチ公」●第4艦隊事件●スウィング全盛とベニー・グッドマン
▶第48号1936[昭和11年]1月27日発売
日本を震撼させた「二・二六事件」●ベルリン五輪の"明暗"●西安事件●エドワード8世「王冠を賭けた恋」
▶第49号1937[昭和12年]2月3日発売
盧溝橋事件勃発、日中全面戦争へ●戦艦「大和」着工●南京虐殺事件●女性飛行家イアハート謎の遭難
▶第50号1938[昭和13年]2月10日発売
幻の東京五輪●岡田嘉子・杉本良吉、ソ連へ越境●代用品時代始まる●笑いの慰問団「笑わし隊」
▶第51号1939[昭和14年]2月17日発売
双葉山、69連勝でストップ●ノモンハン事件の悲惨●「零戦」初の試験飛行●第2次世界大戦勃発
▶第52号1940[昭和15年]2月24日発売
「紀元は二千六百年!」●強まる統制、"配給"に"回覧板"●日独伊三国同盟締結●"海の狼"Uボート
▶第53号1981[昭和56年]3月3日発売
チャールズ、ダイアナ結婚●中国残留孤児の苦難●「窓ぎわのトットちゃん」刊行●フルムーンと熟年

バックナンバーは、お近くの書店でお求めください。創刊号のみ282円(税別)です。直接弊社にご注文の場合は、冊数に関係なく、送料200円のご負担となります。なお、代金と送料は先にお送りください。申込先　講談社読者サービス係　電話03-5395-3676

ミニ事典

1956年のキーワード

新教育委員会制度

従来の教育委員直接公選制を自治体の首長による任命制にするなど、中央による教育統制を強化する目的で新しく定められた教育委員会制度。一月七日、自民党が基本方針を決定、国会での強行採決を経て、一〇月に施行された。しかし、後に不満が噴出、東京都中野区住民が住民投票をもとに教育委員を選ぶ準公選制の実施を求めて署名を集め、昭和五四年五月、ついにその実現にこぎつけた。

共同通信社

▲5月16日、教育三法・小選挙区法・原水爆実験反対の決起大会が各地で開催。

万国著作権条約

著作権に関する統一国際条約のひとつ。著作権は作品完成と同時に発生するとする日本、欧州諸国などが加盟しているベルヌ条約と、登録などの手続きを経て初めて発生するとする米国、中南米諸国加入のパン・アメリカン条約を結合したもの。日本は一月二八日批准、四月二八日発効。これで著作物に©、発行年、著作権者名を付記すれば両米大陸でも著作権は保護されることになった。

首都圏整備法

東京都の人口過剰に対処するため、東京とその周辺三県について総合的整備計画を定めた法律。四月二六日公布。景気上昇とともに都の人口は増加、昭和三〇年には八〇〇万人を超え、人口集中による弊害が諸処で目立ち始めた。この法律は東京駅を中心とする半径一〇〇キロを首都圏として、住宅、交通、上下水道、教育施設などを整備・拡充、人口の分散をはかろうというものだった。

ソークワクチン

米国のソーク博士が開発した小児麻痺予防接種用の不活化ワクチン。五月三〇日、国立東京第一病院が約一〇人の乳・幼児に初めて接種。アメリカでは一九五四年(昭和二九)に四四万人の子どもに接種して有効との結論が出ていた。しかし、昭和三五年の大流行時に有効性が問われ、生ワクチンに駆逐された。

プライス勧告

プライス議員を委員長とする米下院特別委員会が、米軍による沖縄の土地使用について琉球政府に提出した勧告書。六月九日、土地接収の増加、永代借地権要求などを内容とすることがわかり、全島住民あげての反対運動に発展。すでに沖縄では米軍用地が耕地面積の四割にもなっていた。この闘争は全国の共感を呼び、本土にも超党派の支援団体が生まれた。

「もはや戦後ではない」

経済企画庁が七月一七日に発表した『経済白書』の副題。同書は、実質経済成長九パーセントを達成し、かつ経済の回復と安定成長を占う国際収支が五億円以上もの黒字になった前年の日本経済を分析。すでに戦後復興をはかりながらの成長は終わり、今後の日本の経済成長は技術革新が支えると宣言。それを、この年の「文藝春秋」二月号の中野好夫のエッセイのタイトルを借りて表現した。

深夜喫茶

昭和三〇年代に入って急増した終夜営業の喫茶店。コーヒー一杯の料金で長時間いられるため、非行少年・少女の溜まり場になり、カーテンで仕切られたボックス席はラブホテル代わりに使われた。八月七日、東京都は「喫茶店営業等の深夜営業の取り締まりに関する条例」を公布施行、一八歳未満の立ち入り禁止、室内照明を二〇ルクス以上にすることなどの規制を定めた。

日本原水爆被害者団体協議会

広島・長崎・焼津の被爆者が被爆者援護と原水爆禁止を達成するために八月一〇日に結成した組織。略称、被団協。運動により昭和三二年に原爆医療法、四三年に原爆特別措置法が制定されたが、被団協はこれらを不満とし、生活破壊に対する補償を含む法の制定を要求、自社連立政権になった平成六年一二月、やっと前二法を統合する被爆者援護法の成立にこぎつけた。

▶被団協代表委員(理事長)の森滝市郎。原水禁や原発反対運動でも活躍。

戦争責任論争

戦時下の文学者の営為を問題にし、その戦争責任を問う論争。九月二〇日、淡路書房から吉本隆明・武井昭夫共著『文学者の戦争責任』が発行され、論争が活発化した。文学者の多くは戦時の愛国文学、あるいは空白を不問に付したまま戦後活動を再開した。吉本らはそれを問題にし、戦争責任を問うことのない戦後民主主義文学を批判した。

「北方領土」問題

南千島の国後、択捉、歯舞、色丹四島の日本への帰属問題。日本はこの四島は安政二年(一八五五)の日露和親条約以降固有の日本領であったとし、昭和二六年の対日講和条約で放棄したクリル諸島には含まれないとした。三〇年代に入ると日ソ国交回復実現への課題としてこの問題が浮上、この年一〇月一九日、日ソ共同宣言が調印され、平和条約締結後の歯舞、色丹の日本返還が決まったが、ソ連は日米安保改訂後にこれを撤回、今日にいたっている。

▶七月二六日、重光葵首席全権ら八名が、日ソ交渉再開のためソ連に出発。

勤務評定

教職員の昇給・昇格を決める基準。略称、勤評。昭和二五年公布の地方公務員法に規定されているが、長く実施されず、一一月一日、愛媛県教育委員会が初めて採用。各教師ごとに勤勉、積極性、協調性などの項目を校長が評価し、県教育委員会に提出するというもの。愛媛県教組は校長会とともにこれに激しく反対。日教組も闘争を強化したが、三三年、文部省は実施を全国に拡大した。

週刊YEAR BOOK/日録20世紀 1956

CONTENTS

●編集
講談社総合編纂局
アート・ディレクター　山口至剛
表紙デザイン　山口至剛デザイン室(茂村巨利)+渡邉裕一
本文レイアウト　デザインオフィス八起き
編集協力　(有)エービーシープレス　(株)カマル社　(株)コミュニケーションハウス・ケースリー　シド・プロ　(有)マックス　(有)マライカ
飯田守　小原伸夫　鍵和田良輔　小松邦宏　佐野長成　張替政展
藤森雅弘　結城順一　吉田忠正
●写真協力
伊香一郎　但馬一憲　土門拳　長野重一　濱田益水　日高精一　棟方令明
朝日新聞社　NHK　大宅壮一文庫　沖縄タイムス　共同通信社
CORBIS・BETTMANN　日刊スポーツ　ノーボスチ通信社　PPS　文藝春秋　報知新聞　毎日新聞社　読売新聞社　WWP
石原慎太郎事務所　石原プロモーション　キングレコード　劇団チロリン　現代ぷろだくしょん　トラストミュージック　日活　三越
住宅・都市整備公団　日本玩具資料館　日本近代文学館

本誌収録写真につき、所在不詳などのため事前連絡ができないものがありました。お心当たりの方は、編集部までご一報ください。

週刊YEAR BOOK 日録20世紀 1956
●「太陽の季節」芥川賞受賞！
12月16日号
平成9年12月16日発行(毎週火曜日発行) 第1巻第41号 通巻41号
編集人 近藤達士
発行人 丸本進一
発行所 株式会社 講談社
郵便番号112-01 東京都文京区音羽2-12-21
(編集)03-3944-1295 (販売)03-5395-3604
定価560円 本体533円
雑誌 23703-12/16 T1123703120567
Ⓛ 2001/1/1

印刷 凸版印刷株式会社 製本 本村製本株式会社